

風俗奇譚

7月号

特集責めざいなまれる女と男
新着封切り
イギリス・フォード 犬を連れた若奥さん白と黒の交感

〈男女性風俗の粒より話題の探究〉

風俗奇譚

昭和30年7月号

定価 150 円



さかさ吊りの 顔と手は
床にのびて ムチが鳴る



宙吊りの姿勢で コマの
ように ぐるぐるまわる

表紙…土居 啓子
さしえ…江馬 美久
小田 利美
田上 恵子
古正 英生



リス
近着
イギ
フォト

犬を連れた若奥さん
白と黒の交感

(四三)
(四七)

(色刷り口絵) 赤いハイヒール……………田上 恵子(折込)
古正英生責め絵特選画集……………(二)

縛悦の姿態・魅虐の世界……………(二)

グラビア
池畔哀愁……………背中の羞恥……………西牧えり子
庭前の被縛……………受縛の白い人魚……………島崎ユカ
足取りの姿勢……………女学生サデイスチン……………村上アユキ
柱に結かれて……………うしろ方形縛り……………高月まゆみ
とらわれの小鳥……………木馬上の六尺姿……………児玉幹也
足責めのポーズ……………ポイント白禪……………市川正二

<モデル>
西牧えり子
島崎ユカ
村上アユキ
高月まゆみ
児玉幹也
市川正二

特集責めさいなまれる女と男

マソお銀母娘しばり……………獅々村 裕(三)
乗馬服を着てのプレイ……………一ノ瀬悦子(六)
夫のお仕置きがうれしい……………島木郁子(七)
大正・昭和初期 艶麗緊縛さし絵集……………藤川 潤(七)
女性を責める……………あべ・さだよし(三)
アブチックな世界のプレイバシー……………奥村世紀男(五)
サロン・マソキスチカ……………(八四)
悦虐の果てに……………ある女性の
変態履歴……………安 永 明(九)

ホモの窓……………(一四)

亡友との秘話 わがいとしき友に……………加川 明彦(二六)

禁秘帖⑨ 初会の生態……………かびや・かずひこ(二七)

マゾヒストの手紙から⑫……………谷 貫 太(二八)

浣腸ふたりプレイの記……………夏川 絹 子(二九)

ノーマルとアブノーマルは紙一重……………(二六)
私の好きな被虐の見せ物……………肥 満 敬(三三)

ハイヒールのワンダ……………エロティカ出版(二九)

あたしの女装ひとり歩き……………朽木ひろ子(三〇)

女装愛好の部屋……………(三六)
へ女装講座 女の肌をつくる……………大熊 早 苗(三六)

続・ある完全女装……………馬 橋 二 郎(三六)

☆読者サロン……………(三八)
☆編集室より……………(四一) ☆旧号在庫・代理部ご案内……………(四八)

炎帝廟③玄 武 章……………芦 立 鋭 吉(六)

虐殺指令②細菌戦裁判……………真 野 麗(一五)

悦虐の彷徨③享楽荘の情事……………青山三枝吉(一七)

好評連載

縛悦の姿態
魅虐の世界

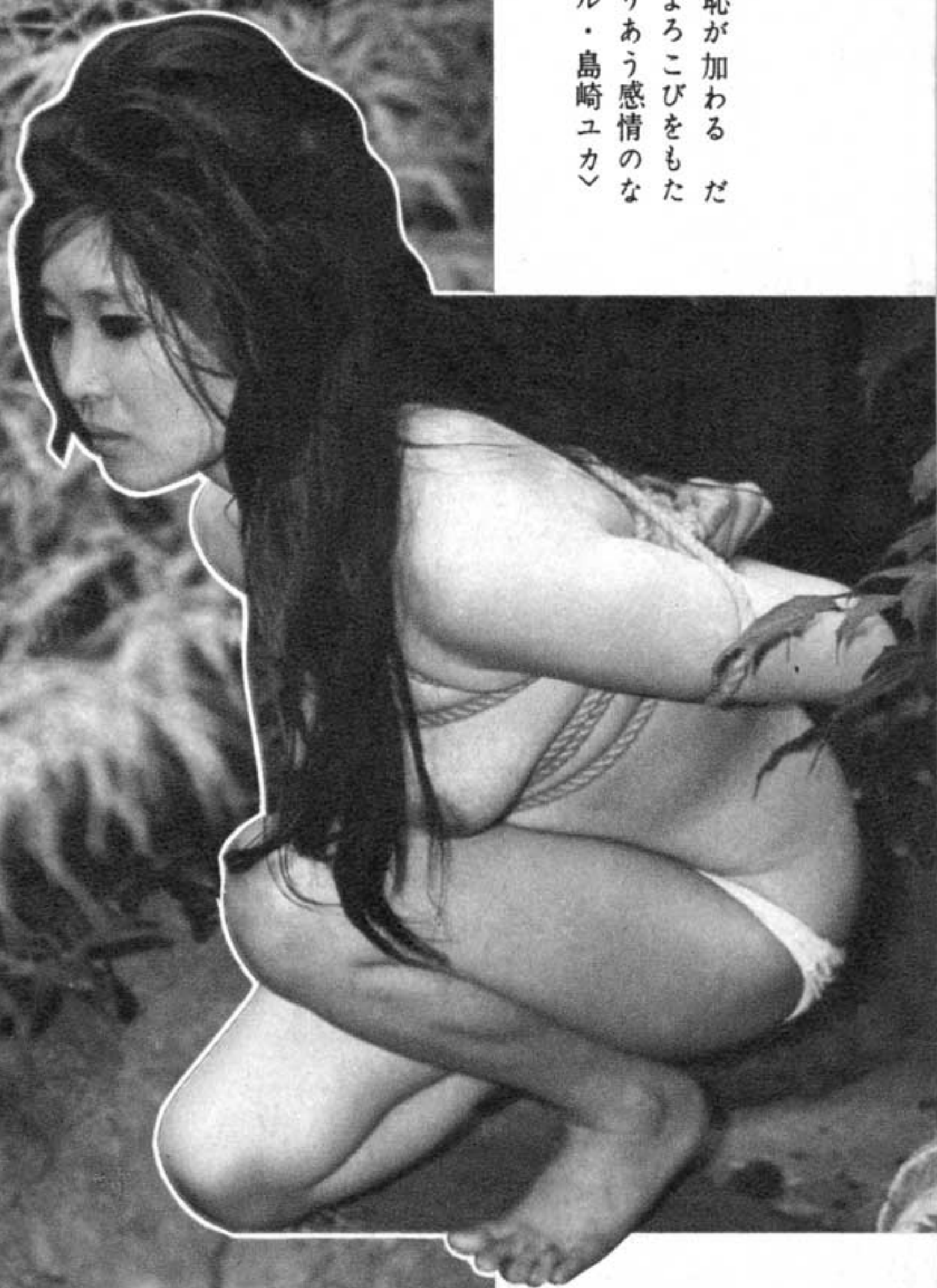
池畔哀愁

水底にも 縛られたあたしがいる いわば 受縛の
光と影 被虐の二重写し絵だへモデル・島崎ユカ

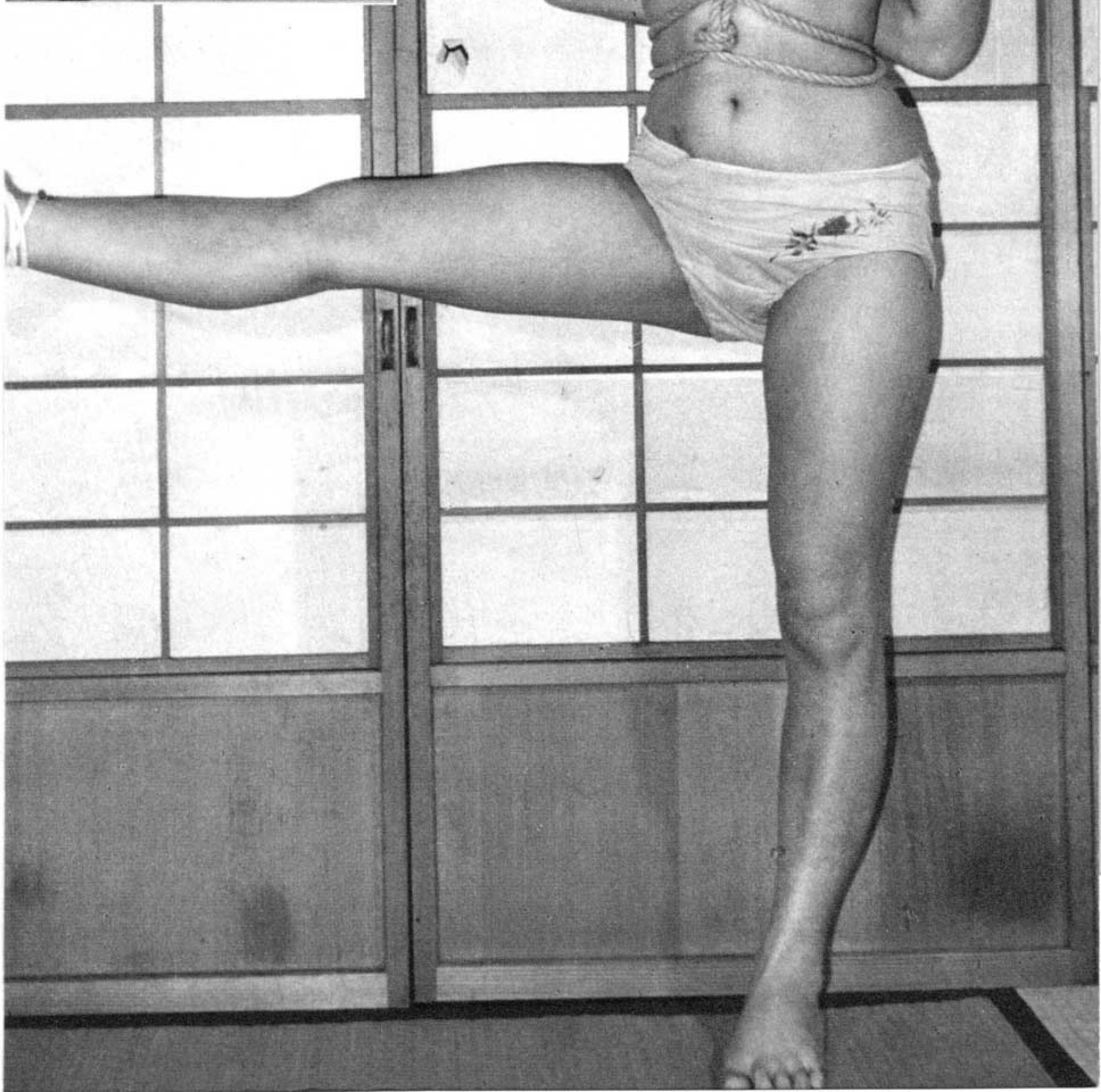


庭前の被縛

戸外で縛られるとき 苦痛のほかに羞恥が加わる だが 羞恥に身をさらすことも 被虐のよろこびをもたらすものだ ああ 苦痛と羞恥のまじりあう感情のなかから 妖^{まじ}しい感覚がわきでるへモデル・島崎ユカ









足取りの姿勢

緊縛の立った姿勢で 片足を吊られる不安定さ〈モデル・西牧えり子〉



柱に結かれて

ひっそりと 床柱に結えつけられた女は 肌に食い入る
縄の痛さに耐え とらわれのわが身を嘆く 雪舟ではな
いが 涙でネズミを描きたくなるへモデル・村上ユキ





ガラス戸の向こうには 夜の庭がうずくまっている 石のたたきに置かれて 裸身に 縄の苦痛と石の冷気が しみとおるへモデル・西牧えり子

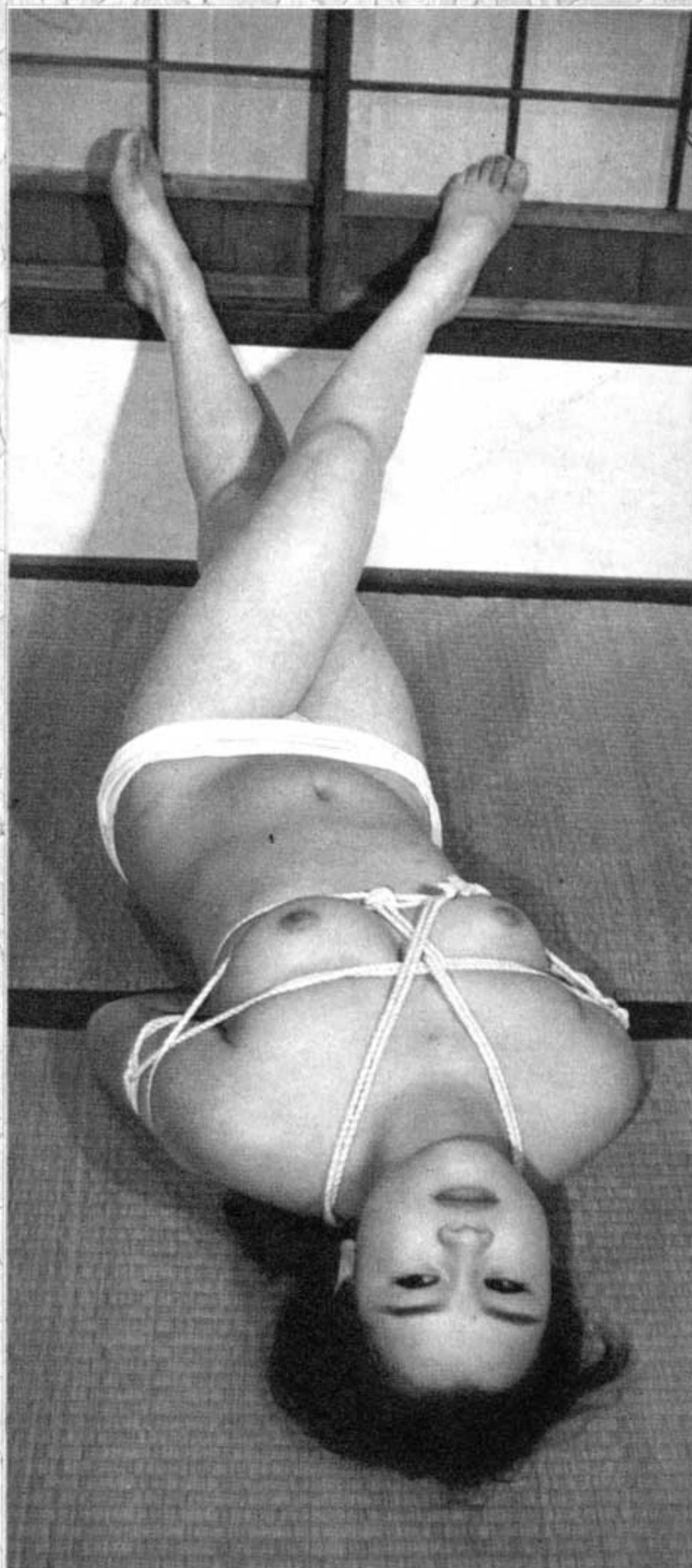
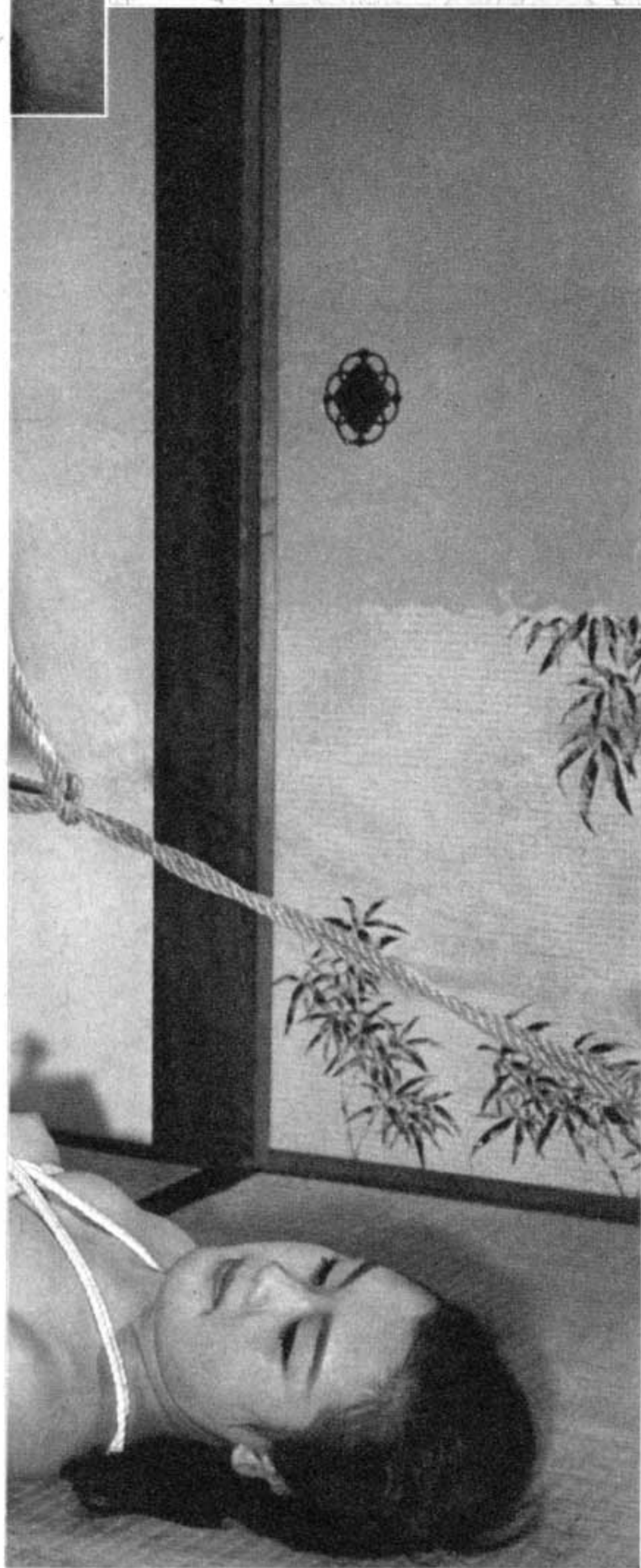


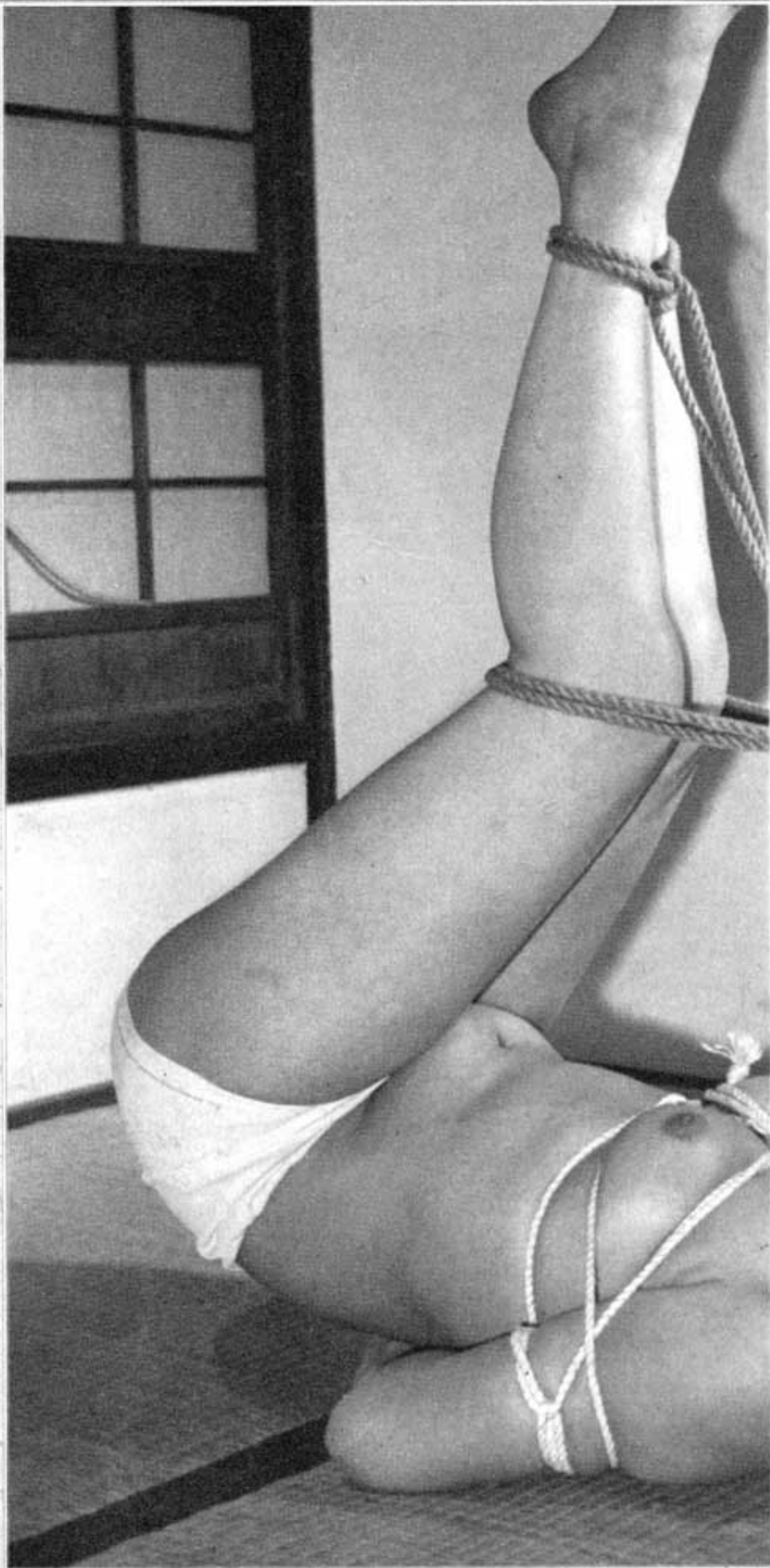
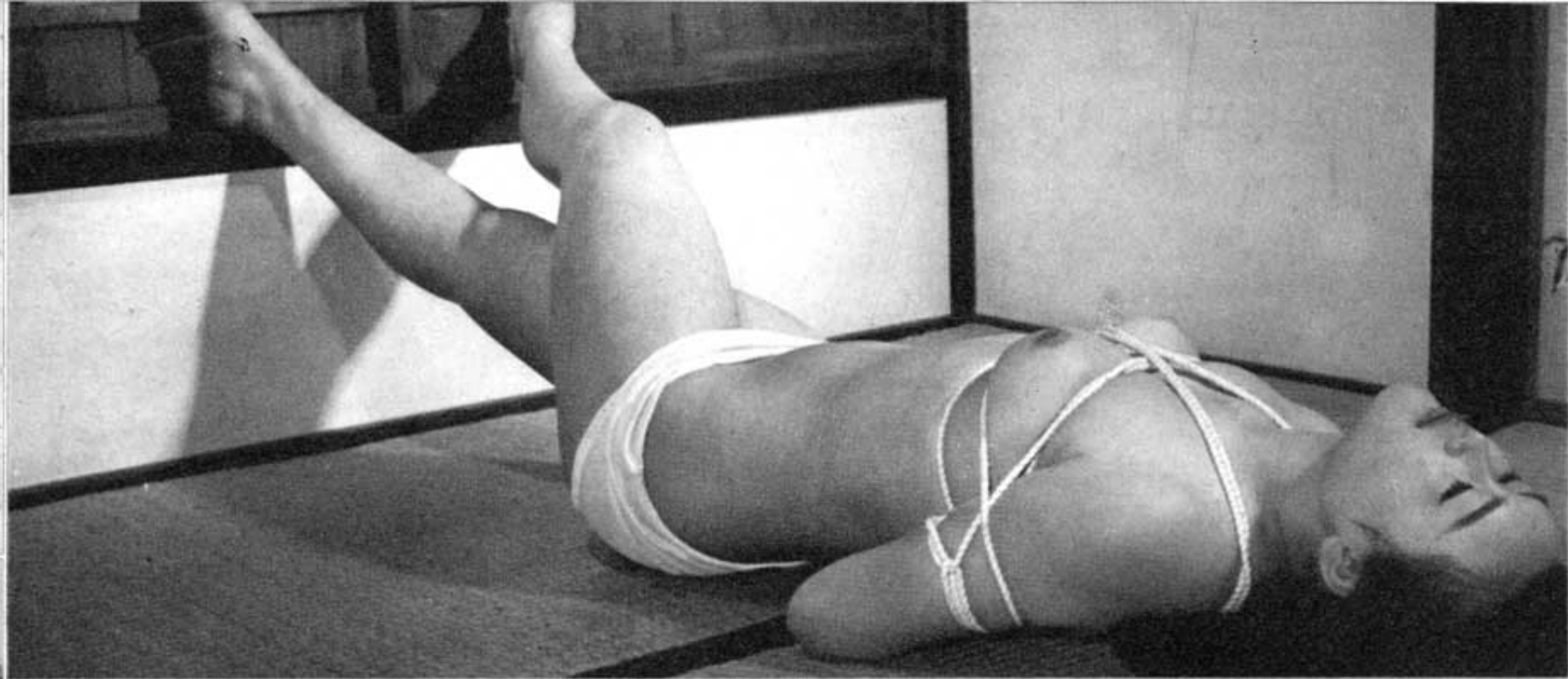
とらわれの裸身



足責めのポーズ

うしろ手しばりどころがされ 膝と足首に繩をかけられて エイヤコラ
と引っぱられる 古ぼけて 入けのない家の一間で 思いきり責めさい
なまれるあたしは 加虐の祭壇に供えられた 哀れないけにえ 苦しい
姿勢でいつまでも置かれると 血まで凍る思いだ 〈モデル・牧アンナ〉



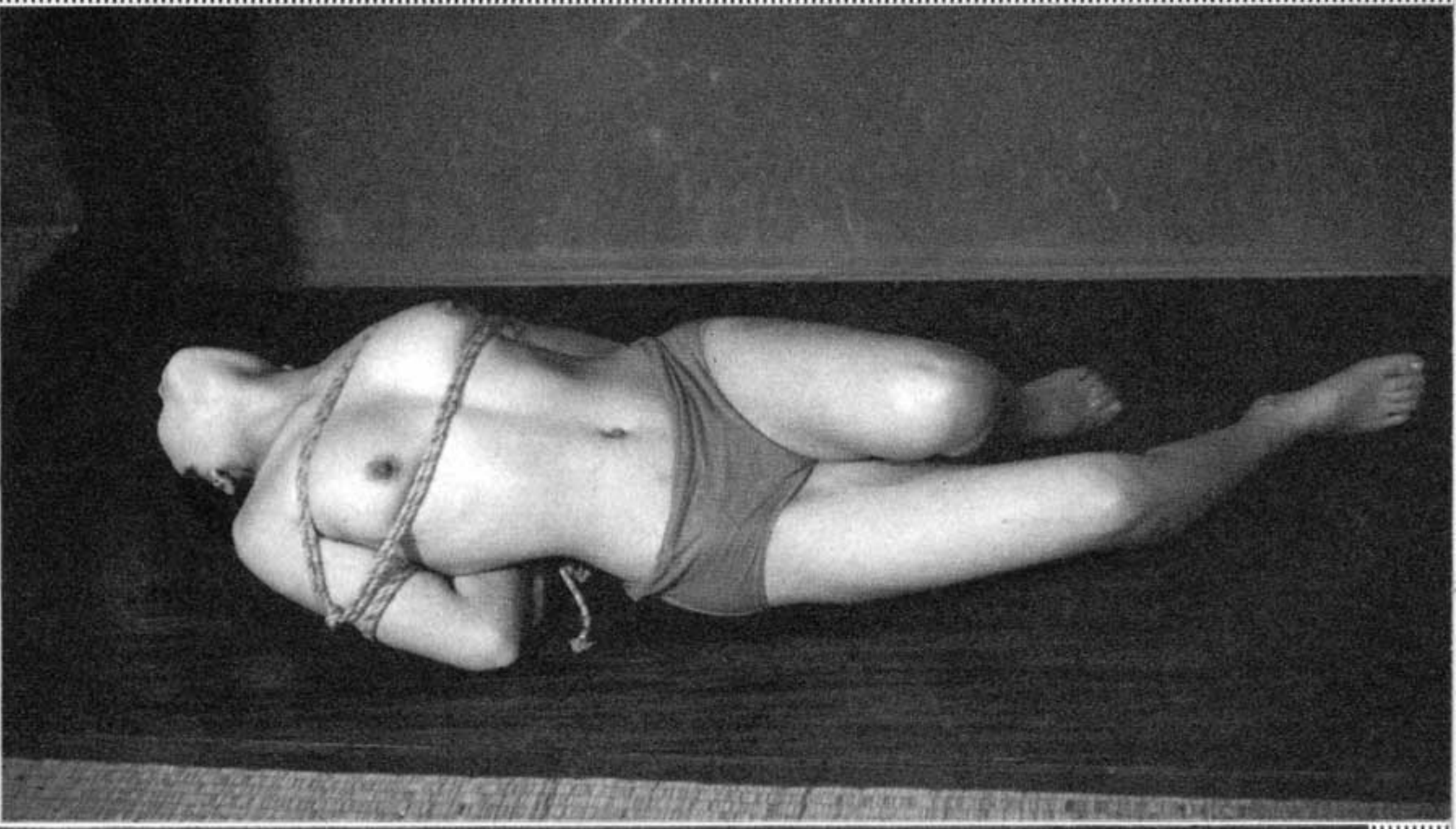


背中の羞恥



縛られた背中が 羞恥にふるえる だか
ら身をよじるのだへモデル・島崎ユカ







俎上の白い人魚

板敷きは そのままマナイタだ 縛られてころ
がされた女は いわば 料理されることを観念
したコイのようなものだ〈モデル・村上ユキ〉





草にころがされて

草はしばしば快適なしとねとなるが 縛られた身にとっては 針のむしろにも等しい
むきだしの肌を チクチク痛めつけ 土の冷たさが 骨までしみとおる ああ 曇り日の草原の無残絵! <モデル・牧アンナ>



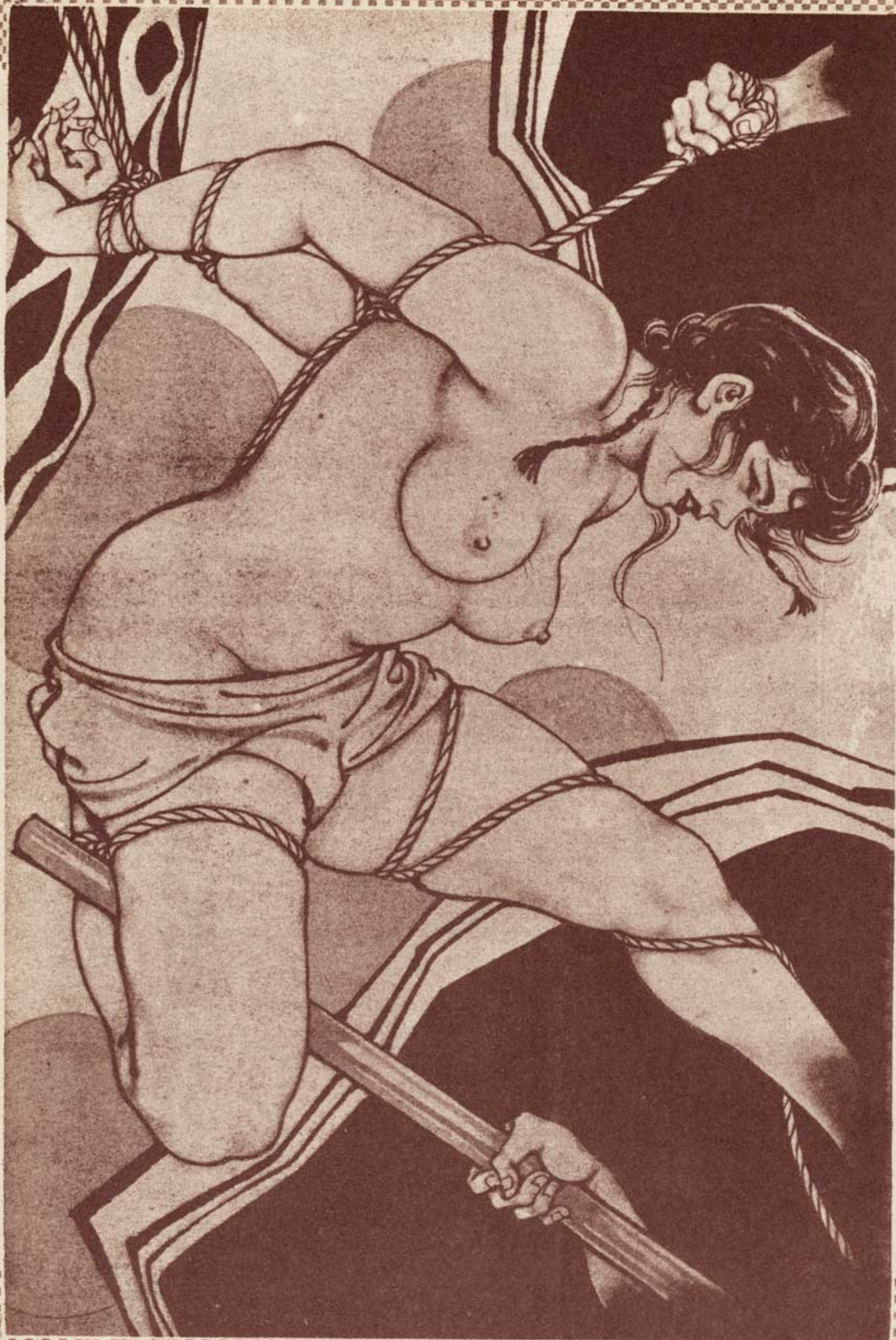
古正英生責め絵特選画集



髪の手吊り——長い黒髪と両手首をいっしょにして頭上で縛られて責めを持つ姿勢

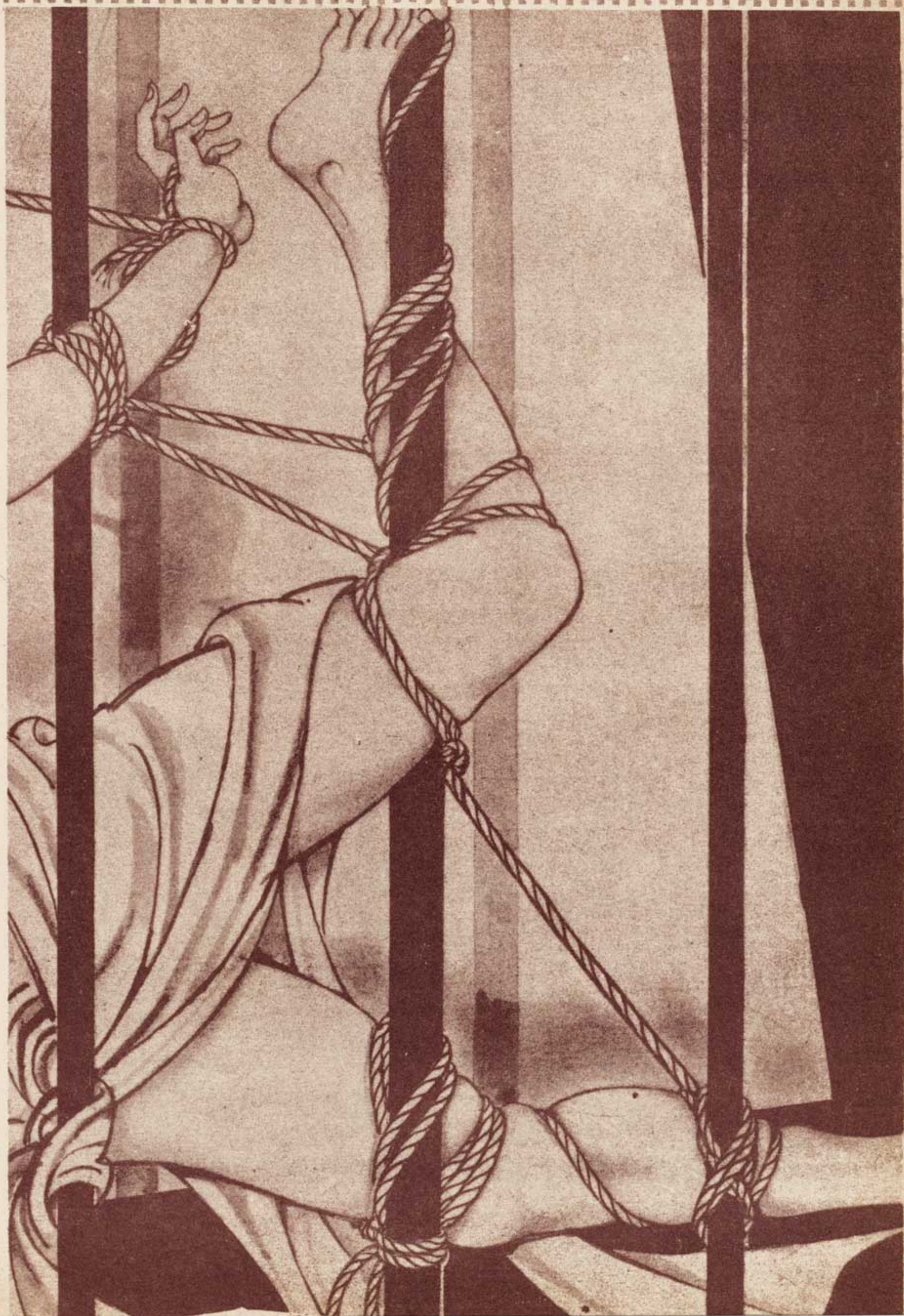


がたがたしゅうに縛——足は入り組まされて結えられ、腕は前方へ、首と胸はかしらへ



夢がこころ——うしろ手にくぐられ、折り曲げた膝の内側に棒がさし込まれる無残さ

不自然な姿勢で留められた裸女 あわれ この美しき肌に サディストの加虐の爪がせまる



オリの中の縛女— けもののようにオリに閉じこめられ 鉄棒に 昆虫標本のように手足を





柱だき無残絵——裸身に太い柱を抱かされ、両手は吊られ、下半身は無理な姿勢で



呵毒かま棒——盾を貫中らうしる手に縛られた柔腕に、弓の折れが横切谷紋なく伝る

譚奇俗風

1961年7月号

特集 責めさいなまれる女と男

アブチツクな世界のプライバシー

奥村世紀男

異性に責めさいなまれることによって性的興奮を覚える人びとは、いうまでもなくマゾヒストであるが、反対に、異性を責めさいなむことによってのみセックスの満足をうるサディストの群れのあることは衆知のことだ。そして、そういった性向の持ち主は、アブノーマルな人として、社会の埒外らちがいにおかれがちである。

だが、そういったサド・マゾ的な性向を、一概に、悪いときめつけてしまうのは、はなはだ早計である。というのは、社会から指弾しだんを受けるそうした連中は、ごく一部の犯罪者にすぎないからである。また元来、人間の心の底には、サド・マゾの気質が、多少の差こそあれ、例外なく眠っているのだ。それが、何かのキッカケで出てくるわけだが、ある一部の人びとにあっては、とめどなく噴出して、凶悪犯罪に走る場合がある。それだけを見て、サド・マゾの性向一般をおしはかるところに、重大な錯誤が生まれるからである。

そういった性向をもちながらも、社会的にりっぱに第一線で活躍している人びとは、ひじょうに多い。そういう人びとは、そのプライバシーにおいて、他に迷惑を及ぼさないように気をつけながら、自分の性向を満足させることに思いを至している。だから、異性を責めさいなむとはいえ、それが、お互いのあいだで、有無相通じ、その限りにおいて楽しみあうとしたら、それはそれで、そっとしておいてもいいのではなからうか。

女体を責める

あべ・さだよし

女責めの心理

女というものは気味のわるいものです。どこか底のしれない泥沼どろぬまのようなところがあった、とことんまでやつつけたつもりでいても、まだニタニタしている。その動物的な生命力に、男は、本能的な恐怖心をもっているのです。

だから、女をいろいろと責めさいなんでみたいと思うのも、じつは、そうした男の畏怖心おそしみの裏返しうらがえの表現といえないこともありません。

せんだって亡くなった伊藤晴雨画伯の作品に「野ざらし」という責めの絵があります。

雲助かゴマのハエとも思えるあらくれ男たちが、旅の女巡礼ごんれいを木に縛りつけてなくさんでいるところです。

女の白い太股おしははり裂けそうにひろげられたまま、宙吊りちゅうりになっている。生きなが

らのさらしもので、女としてこんな恥ずかしいかっこうはありません。その恥ずかしさと恐怖のために、ぐったりと失神したようになっているのです。

ところが、そんなふうに絶対的な優位に立ってさえ、男は女に対して、なんとなく「かなわないなあ」というような気になるのです。

なるほど、女をそんなふうに身動きできないほど縛りつけてしまえば、したいと思うことはなんでもできるような気がします。

しかし、それは、そういう気がするだけで、ほんとうは大したことはできません。の意図の責めにはなりません。失神させてしまっても、責めの快味は半減されます。生かしておいて、そして気をたしかにもたせておいて、いろいろと思ひ知らせるのが責めの妙味めいみというものです。そういうふ

うに考えると、さて、女を縛りあげてみたものの、その白いやわらかい軟体動物なんたいどうぶつのようなもの、その前まへにして、なんとも手の下しようなものではないような、不思議な焦燥感しょうそうかんにかられるのです。

そこで、その白いふてぶてしい肉塊を痛めつけるための、あの手この手が考え出されるのです。そして、しまいには、自分のほうが責めくたびれて、逆に敗北したような感じにさえなるのです。日本の秘画の誇張的な表現は、そうした男のやりきれなさの意趣いきばらしともいえるかも知れません。このように女を生け殺しにしてみたいという夢を、それに託たくしているわけです。

もともと「責め」というのは、非常に心理的な要素がものをいいます。腕力にすぐれた荒くれ男が、かよい美

女を縛りあげたとします。

その男は、非常に単純な精神構造の持ち主で、ろくすっぽ「責め」の手だてを考えだす才覚さいかくもなかったとします。その結果、踏んだり、蹴ったり、ぶんなくったりします。女はヒイヒイと泣き叫ぶかも知れないが、そんな苦痛は単純な苦痛ですし、すぐにマヒしてしまいます。もっとひどくやれば気を失うだけです。責めるほうでも、その刺激の単調さにすぐあきてしまう。こんなものは、ほんとうの意味の責めではないのです。責めとはもっと陰險で意地が悪く、ネチネチしたものなのです。さて、そ

の手口ですが――。

本質的な責めとは

私は、銀座などで、スタイル・ブックから脱けだしてきたように流行の服装をし、どこか小なまいきそうで、しかもセックス・アピールは相当なものだ、と思うような女性を見ると、

「こんなのをトコトンまで責めあげてみたいなあ」

という衝動にかられます。

そんな高慢ちきな、そして気の強そうな女は、なまはんかなことでは音をあげないにきまっています。というのは、女というものは、追いこまれると、じつに不敵な受け身の抵抗をみせるものです。いったんそうした状態に女を追いかけてしまうと、手がつけられません。

こんな女を、

「まいりました。おゆるしください」

と言わせて床に頭をつけさせるのには、

よほどの狡知が必要なのです。

私はこんなことを考えます。

そんな女をいけどりにして、どこかに監禁するのです。あまり手荒なことをしてもいけないし、羞恥心をマヒさせるようなことをしてもいけない。羞恥や苦痛に対する新鮮な反応力を温存させておくのです。一種の軟禁状態において、礼儀正しい白い上着のボーイなどに身のまわりの用をさ

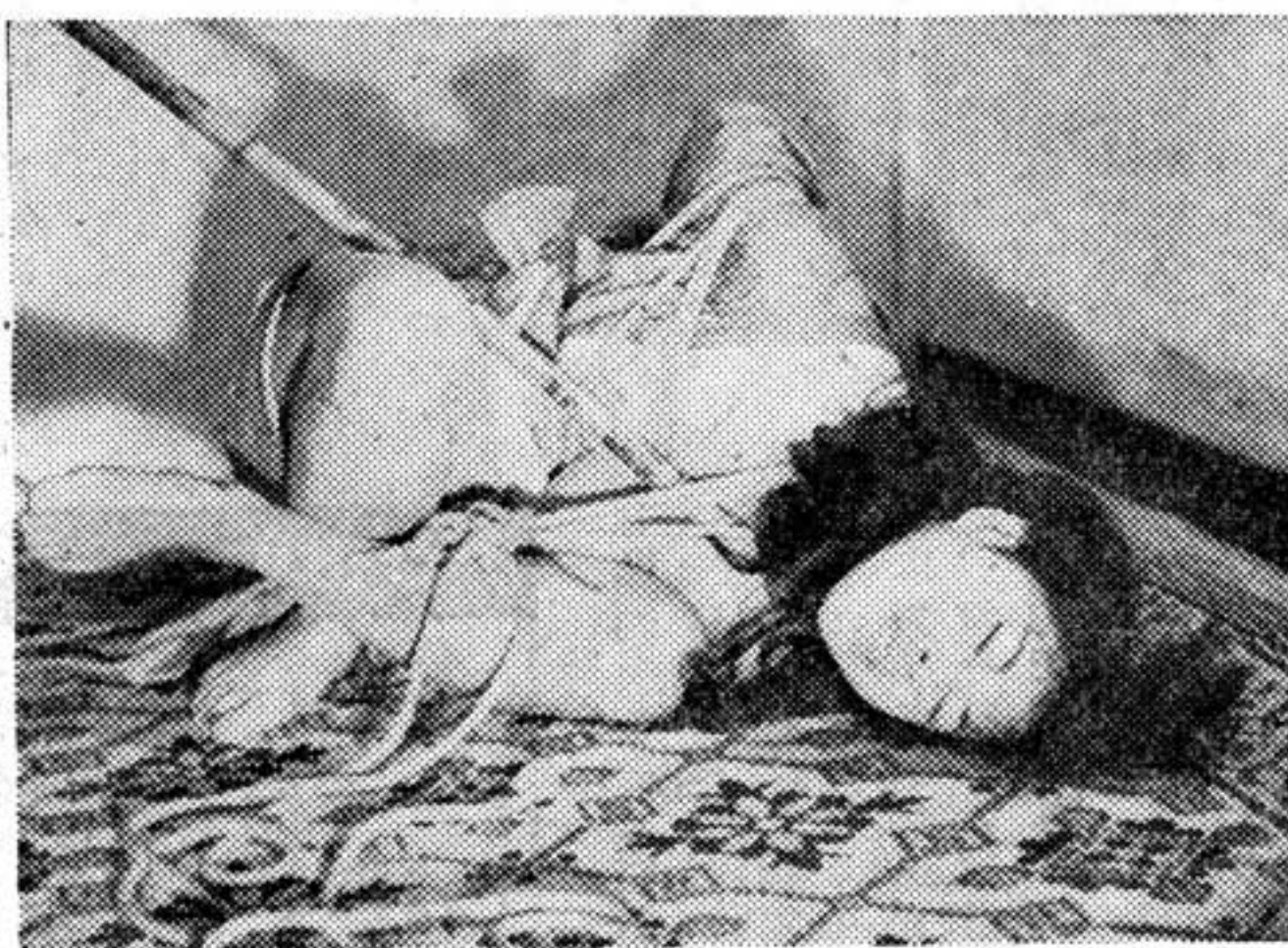
せる。食事なども運んでやる。つとめてうやうやしく取り扱って、本人のプライドを傷つけないようにしておくのです。

ただ一つ、なんらかの方法で、排泄だけは禁じておくのです。

どんなに大切にとり扱われようが、安楽にしていようが、うまいものを食わされようが、排泄できないということは、生体にとって、この上もない苦痛です。

一日、そして二日くらいは、がまんできたとしても、三日目ごろからはどうにもしかたがなくなる。死にまさる苦しみです。ひたすらに排泄だけを願うようになる。それが頂点に達したところを見はからって

「さあ、ゆっくり、そして思う存分出してくださいよ。だれもじゃまはしませんからね」といって、彼女をその場所――三尺四方の例の便所なみの空間に案内する。便器もついている。巻き取りのトイレット・ペーパーも用意してある。水洗器から漏れるチ



ヨロチヨロという水の音さえ聞こえます。要するに、快適な便通をうながさずにはおかない諸条件がそろっているのです。ところが一つだけ、困ったことがある。その三尺四方の便所のまわりの囲いが、

板ではなくて、透明なプラスチックなのです。そして、そのまわりを、加山雄三、実戸錠、二谷英明ETC――といった現代的な感じのする好青年たちがずらりと取り巻き、プラスチックの透明板に顔をおしつけるようにして、彼女のからだから、まるでチューブを絞って何かのクリームが出てくるように便が絞り出されてくるのを、今やおそしと待っているのです。

彼女の便意はすでに極限に達しているのですが、こうした好青年の視線を四方から浴びながら、はたして生理的欲求に従えるものかどうか。こうした、いわゆる生理面と肉体面のミックスされた責めこそが、本質的な意味での責め

ではないかと思うのです。

死にまざる羞恥

それでも、彼女は、苦しまぎれにするかも知れません。死にまざる苦しみからのがれるためには、そうするよりほかはないのですから。ところが、それを果たすためには、今度は死ぬほどの恥ずかしさに耐えることが必要なのです。

この種の女性にとっては、それは、踏んだり蹴ったり、横つらをはられたりするより、よっぽどつらいことなのです。しかも、すごい流行衣装をつけたままですから、彼女は、その衣装と、それをまくってからだの中の不純物を押しだすというへんてこな行為との不つりあい、死ぬほどつらい思いをさせられるのです。いっそ女乞食のかっこうでもしていれば、好青年環境の中で、そんなあさましいかっこうをして、それほどの不つりあいはないかも知れないのですが――

しかし、たまったものが押し出されるのは、潮の干満と同じような天地自然の方則です。

彼女はついに決心する。そして「神さま」と念じながらしゃがみこむ。すると、プラスチックの透明板の外の青年紳士たちは、スマートな細身のズボンの膝をかつこうよく折ってしゃがみこみ、いっせいに彼女の臀部のあたりに視線を集中するのです。

青年紳士たちがしゃがみこんだので、はじめはその背後が見渡せたのですが、そこはホテルの大広間のようにキラびやかな場所、カクテル・パーティーでも催されているらしく、大ぜいの紳士淑女たちが三々五五、かたまって談笑しています。そして、プラスチックの箱の中の異様な光景に気づくと、

「なんででしょう」

というように好奇の目をかがやかせながら近よってきて、箱のまわりを取り巻きまです。そして、

「まあ」というような、タメ息ともざわめきともつかない気配がゆれ、それらの人々の視線はいっせいに彼女の臀部のあたりに注がれるのです。よく見ると、そうした紳士淑女の群れの中には、ナット・キング・コールやミスター・ラミー牧場や、ミスター・モーガン警部など、今をときめく外人タレントの顔も見えるではありませんか。かれらは、

「こんな美女の黄金を見られるなんて、なんてすばらしいショウだ。訪日みやげに、黄金の形や質なんかも、よく見きわめて帰ろう」

そんな顔つきをしています。

箱の中の彼女にとっては、それは死を宣告されたよりもはるかに決定的な絶望感でした。

しかし、排出の要求は、いまや、あらゆる

飛び出す!!ノーパンティショウ

★今迄誰も手がけ得なかった女体の秘密をあます所なく描き出したステレオ界前代未聞のズバリポーズ。うら若き女学生達の温泉場面を秘密撮影。淫靡な湯に映るむっちりとした魅力のモモきゅん。とくびれたままに隠れてはならない禁断の神楽地。思わずふりつきたいステレオの魔力。情事に身をくねらせて泣く身も心もとろける様なセクシーモードの体当り演技。男子禁制のまばゆいばかりの桃源境を貴方の眼前で再現。他秘密撮影演出。撮影等各種豊富。今評判のステレオも大半が雑誌の口絵写真程度ですが本品は当会員の特別頒布品の中よりや、平凡な物を選んで一般分譲。本品お買上げの方は準会員とし、特典あり正会員は準会員中より厳選し個人的ご希望に必ず市販のステレオに不満の方始めての方もぜひ当会にご加入下さい。

7組入千円 20組入二千円 40組入三千円

右は特殊眼鏡一台付。公共の価格必らず書留にて型録。ナシ会員の皆様へ。長い間ご迷惑をおかけ致しました。此のたび漸く営業停止期間が過ぎましたので。新しい新たに発足致しました。何卒引き続きご依頼致します。従前通り会員特報。毎月送付。通信は必ず私書宛。大宮局私書。第二十三号。

(ステレオクラブ改め)ステレオ趣味の会

る抑制をこえて痛烈です。もう、自分の意志ではどうにもなりません。全身の筋肉がふしぎな蠕動をはじめ、それはキリキリともみこむような動きとなって、下腹部に集約されたかと思うと、腸内の物質を、おそろしい、自分ではどうにもならない圧力で、体外に押し出しはじめたのです。

「あっ」

人びとは息をのみ、鳴りをひそめて、黄金の誕生を見まもったのです。まさに錬金術の玄妙な瞬間を見るようなおどろきをこめて――

そしてそれが、からだを離れおわって落下したとき、ホーッというタメ息とともに

に、万雷のような拍手がわき起こったので

す。
しかし、箱の中の彼女は、それをきいてはいませんでした。便器をまたいだ姿勢のまま硬直し、すでに、生体の機能を停止していました。羞恥が彼女を殺したのです。

女の生命力

以上のような、心理的な拷問を加味したやり方に比べると、「野ざらし」の雲助たちの方法は、男性的で人のいいところがあります。

なんとなく野天で獣肉の鍋を車座でつついているような風趣があります。

しかし、どんなやり方にせよ、責めには、やはり拘禁というものが前提条件になるようです。縛るか、檻おりに入れるか、とにかく相手の自由を奪うところからはじまります。鞭刑むちけいにしたって、密室の行事として行なわれるから興味が深いのです。縛ったり、檻おりに入れたり、鞭打むちうったりするの



は、あらゆる責めの基本になるパターンのようなものともいえます。カクテルでいえばベースです。それに何を混合するかで、いろいろと変わった味が生まれてくるのです。

しかし、女のからだというか肉というか、これはふしぎな性質をもっていて、縛られたり檻おりに入られたりすると、一種の毒を分泌しはじめるのです。そして、この毒があるために、よけいその肉がおいしくなるといふ、まるでフグみたいな効用をもっているのです。

だから、縛ったり、せまい檻おりに囲ったりした女を食べつけた男は、ふつうの女では物足りなくなる。できるだけ長く縛っておいたり、檻おりに入れておくほど毒はよくまわり、肉はおいしくなるのです。そのかわり、下手へたをするとあてられます。サディストが往々にしておかしなくあいになつてしまうのも、その毒にあてられるせいだ、といえないことはありません。

ある写真家は、女の肉はまるで密造のどぶろくのように、囲っておくとうまくなることを知っていて、かれの女房兼モデルを、しょっちゅう押し入れの中に押しこんでいました。

そして、ときどき出してみれば、熟れたかどうかを検査してみるので、指でその肉を突ついたり、まぶたの裏をひっくり返してみたり、アーンをさせて口の中をのぞきこんで見たり、まるで魚の焼け具合でもしらべるようです。

そしてあるとき、女は彼の油断しているちょっとしたスキをうかがって、寝巻きのまま戸外へとび出し、逃亡をはかったのですが、あんまり長いあいだ押し入れの中にころがされていたので、足の裏がまるでヤワなものになり、百メートルもいかないうちにぶっ倒れてしまったそうです。

むろん、すぐ亭主につかまってしまいました。

その足の裏には、小石がいくつもメリこんでいて、その亭主は、「バカだな、こいつ。にげたりしやがって」

そういいながら、その小石を一つ一ついいねいに足の裏から取り除いてやっていたそうです。

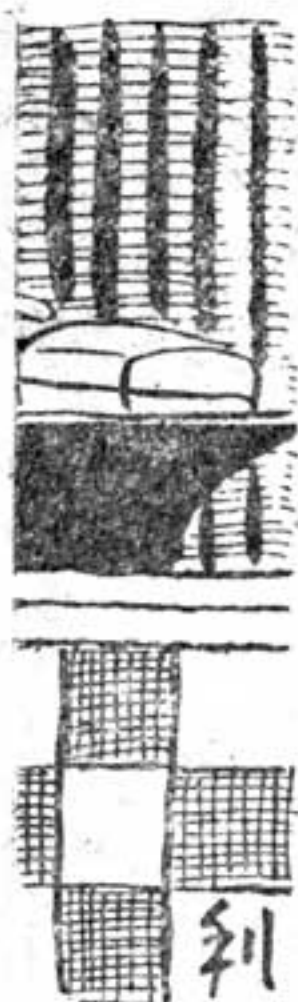
とにかく女のからだというものは、寸断されても生きているミミズのように、うす気味わるい生命力をもっているものです。

奴隷妻として

氷のように冷ややかな夫、私の夫は確かにそうだ。ものすごい暴君で、妻である私に何かといえはすぐ暴力をふるう。男女同権という世の中というのに、私は年じゅうただオドオドして、夫のご機嫌をうかがっているだけ。右を向いているといえは、私はおそらく一日だってそうしているだろう。夫の言うまま、第三者の目から見たら、私はまったくの奴隷妻としてしか映るまい。

だけど、私ははたして悲しがっているだろうか。いいえ、決してそんなことはない。私はうれしいのだ。私は夫を熱烈に愛している。そして、私は、夫もまた私を愛していることを、ひそかに、いえ、はっきりと知っている。でも、夫に対して、決してそんなことを口外したことはない。そんなことをいえは彼の平手打ちが、

「生意気いうな！」という声とともに、私の



たしは夫のお仕置がうれしい

島 木 郁 子

頬に飛んでくるに決まっているからだ。

現に、私がへたな求愛のことばをささやいたとき、夫は私をいやという目に会わせた。彼には、私が意志のない人形のようにでなければ、不服なのだ。そして、私は彼の蹂躪（じゅうりゃく）に対して、まったく無抵抗に、おとなしく甘んじていなければならないのだ。

それが、私たち夫婦の間の鉄則であり、もしおまえが世間並みの妻のような権利を主張しだしたら、おれは、おまえのまえからすぐ消えてしまうと、夫はかねがね宣言している。

私は、でも、こんな状態が幸福なのだ。夫が反逆しろといったって、私はしないだろう。私は、夫からいつまでもいいじめられ、手ひどく扱われていたい。夫から離れる、夫が私の前から消えてしまうと、そんなことがあってはならない。私はもう夫から離れられない。

鋭い目つきの人

夫と私が知り合ったのは、いまから三年前のことだった。夫はそのころ、学校を卒業してちょうど二年、ある出版社に勤めて、いっこう売れない小説をせっせと書きためていた。そして、それはいまも同じなのだが。

私は、夫の出版社と取り引きのある、ある



あ

製版会社の事務員だった。私は色
ずりのグラビアができあがると、
それを、彼の社の編集部へ届けに
行く。校正を待つ間、問いかけら
れでもない限り、私は編集室の
片すみでぼんやりと腰をおろして
いた。二十一で、可愛い娘だった
私は、編集部の男の人たちからい
ろいろうわさされていたらしい。
でも、私は、その人たちにはほ
んど興味をひかれなかった。
私がいつもすわるはす向かいの
机にいて、私のことなどまるで眼
中にならないような、たまに目が合う
とにらみつけるように、こわい一
べつを与える、憂うつそうなひと
りの若い編集者に、はじめから心
ひかれていたのだ。
それが、いまの夫だった。
思えば、一年あまりの長い交際

期間、夫は私に優しいことば一つかけてくれ
たことはなかった。私は、いつも彼の刺し通
すような、鋭い目におびやかされ、小スズメ
のようにオドオドしていたのを覚えている。
そして、そのころから私は、彼から逃げ出す
ことができなかったのだ。私は、彼のそのよ
うな目に、魅入られていた。

そして、結婚。

現在の私が形成されて行ったわけだ。

しかし、私は、あの編集室の片すみで、彼
の目の光に思わずうなだれたときから、なに
かきょうの日のことを予感していたように思
えてならない。宿命というのだろうか。私
は、この人につかまえられる。そして離れら
れなくなる。私は、この人が好きだ！ 私の
胸の奥深くで、こんなことばを叫んでいた。
それにしても、私たちは相会ったときか
ら、なにかびったりと結びついたような感じ
がする。

とすると、私たちは、生まれつきサドであ
り、マゾであったのだろうか。

もっとも、私の徹底的な従順さが、夫の狂
的な性格をますます狂暴なものにし、反対
に、夫の性格が、ますます私を従順に、被虐
的にしていったことは認める。

熱湯をかけられて

夫の帰りは不規則だ。六時ごろフラリと帰って来ることもあれば、夜中の二時ごろになつて玄関の戸を陰気にたたくこともある。

私は、だから、いつでも神経が緊張のしどおしである。ちょっとぼんやりしていると、夫の、長い、もじゃもじゃの髪をたらしした青白い顔が、ずっと、音もなく座敷へはいつて来ることがある。まるで、幽鬼ゆうきのような顔、ほりの深い端正な美貌だけにいっそう妖気を感じさせる。それでも私は、気味が悪いとは思つたことがない。私は、そういう夫に、かえって狂おしいようなとしさを感じるのである。でも、こうして、私が出迎えないうちに夫が座敷の中へはいつて来てしまったようなときは、ただでは納らない。

夫はつかつかと近づくと、いきなり私の頬に強い平手打ちを食わせる。

「あっ」と短く叫んで、立ち上がりかけた私が、だらしなく横倒しになると、夫はさらに狂暴になって、私の毛髪をつかむと、座敷じゅうを引きずり回すのです。私は、あまりの痛さと、苦しさに声さえたてられませんか。

夫は、最後に、投げ捨てるように、私を、

座敷のすみにころがすと、そのまま、ひと言も口を聞かず、プイと書斎のほうへ行ってしまう。

私は、毛のつけ根のひどい痛さに、ポロポロ涙をこぼしながら、乱れた裾すそをなおし、夫がいつ帰ってきててもいいように、火ばちにかけっぱなしにしてあるやかんをおろすと、急いでお茶をいれて夫のところへ持っていく、そして、食事は済んだかどうか、オズオズとして聞く。

夫が短い声で、

「いらない！」

という、私はいままでの空腹も急にいっぱいになってしまったような、がっかりした気持ちになって、ひとり寂しく食膳のおおいを取る。

そんなとき、夫がまた気まぐれを起こして、フラリと座敷へはいつてきてくれるようなことがあると、私の顔は、うれしさでパッ

性

永年の経験と専門的研究

勃起力の不足・とても早い男性器が小さい方々
一、百円送金者に「性の悩み解消」「粹人に」の小冊子
子コンドーム二個その他性の参考刷りもの
一、五百円では、早漏者の福音クリム定価五〇〇円
「性愛技巧」の書冊一部その他性の参考刷りもの
一、千円では、勃起力を強める器具と永持する秘薬組合せと性の参考刷りもの

性器短少に真空プラスン器 クリム付

(こっそり使える) 一、五五〇円

代金着金次第送品・代理店希望者書面請う

個人名で密送・東京葛飾区本田中原町三五六

白水荘優性相談室・私書函葛飾局十九号

と輝く。

夫が、いきなり私に平手打ちを食わせるようなときは、でもまだいい。

座敷をチラとのぞいたまま、まっすぐ書斎にはいつてしまうことがある。

私は、背筋がゾクゾクと細かくふるえ、心臓は早鐘のようになりだす。どんなことが始まるか、私は知っているからだ。

とにかく、私はバネ人形のようにぴょこんと立ち上がると、お茶のおぼんを持って、がくがくする膝を必死に押えながら、書斎の戸

をあける。茶碗からお湯がこぼれたりしたら、ますます大変だ。

「あの、お食事は」

私は、ふるえる声をいっしょうけんめい押えながら聞く。

「うるさい！」

夫の手がすばやく動いたとみる間に、私の顔は、飛び上がるような痛感に、

「アッ、ウッ」

と思わず盆を取り落とし、よろめく。

心をこめていれた熱いお茶が、私の顔にまっ正面からあびせられたのだ。

顔をつたった熱湯は、さらに首をつたって、胸の谷間に。着物もみるみるにじんで、黒っぽい色に変わって行く。

「あっ、あー」

私は、顔と胸をかきむしるようにして、夫のほうへ倒れかかる。夫は、それを邪険に突き飛ばす。私は二、三步タタラを踏むと、壁へ頭をぶつけるようにして、じゅうたんの上へ倒れ伏すのだ。裾前も乱れて、恥ずかしい格好でもかく私を、夫は冷酷な目でじっと見おろしている。

私は翌日から、まっかに焼けた顔で、表へも出られない。

そんな私を、みっともない化け物だといって、夫は、そばへも寄せつけてくれないのだ。それどころか、まだひりひりする火傷の部分を、ピーンと指ではじいたりもする。

夫がこっちへこいといっても、私は、このうえ何をされるのかと思って、足がすくんでしまう。

それでも夫が優しい声で、

「おいで」

ともう一度呼んだら、もう私は抵抗できなだらう。

それが夫の作戦で、次にどんなひどいじめ方を考えているのか、などということは、すっかり忘れてしまって、私は、フラフラと夫の胸へ倒れこんでしまう。夫の気まぐれな手が、私の髪を優しく愛撫してくれることもあるのだ。

私は、なにもかも忘れて、うっとり夫の胸によりかかっている。意地悪な夫の手が、私のお尻を力いっぱい引っねって、私を飛び上がらせるまで。

苦痛と喜悦と

私はさっき、私たちは生まれつきのサドであり、マゾであるかもしれないと書いた。

だが、私は、結婚するまで、いや、彼と知り合うまで、具体的にこれといった体験を持ったことはない。それは、彼、夫にしても同じだと思う。

ただ、私の結婚に対する理想は、同年の若い娘たちとは、早くから異なった傾向を見せていた。

私は、少女時代から、男女同権というようなものには、これぼっちのあこがれも持たなかった。

主人に対する奴隷のような関係、夫と妻はそのようなものでありたいというのが、私の少女の日からの理想であったのだ。

私の育った家庭は、父が絶対権力をふるい、母や、私たち姉妹は、ただ、父のいうなりにあって、その逆鱗にふれないよう、ふれないよう努めた。そして、母も私たちも、安心しきっていたのだ。

ことに母は、そんな父を、表面おそれながら、だれよりも深く愛していたように思える。私たちの目の前で、よく母は父にぶたれたり、髪を引っばられたりしていた。そんなとき、なんの抵抗も見せず、ただ悲しげに父の顔を見上げる母の、あの情のこもった、うるんだようなまなざしを、私は、一生

忘れることができない。

私は、母のその目を思いだすたび、いまでも、身内にぞくぞくとしたうずきを覚える。母は幸福だったのだ。母の目はもっとぶって、もっとぶってと、父に語りかけていた。私たちが大きくなってからも、そのくらいだったのだから、私たちの小さかったとき、そして私たちが生まれなかった前の父と母の関係は、いったいどんなものだったろうか、私はいろいろと想像をめぐらすことがある。いまの私たちのようであつたろうか。それだったら、どんなにすばらしいだろう。

私には、父と母の生活が理想だった。あるいは、私は父に恋していたのかもしれない。そして私は、母になりたがっていたのかもしれない。私の新家庭の理想がふつうとは変わっていたのは、当然だった。

私は、夫に家事をてつだわせたり、夫と妻が対等な口を聞き合うような新婚生活にはとても耐えられなかったろう。そこには、夫の視線の前にオドオドと頬を伏せる、からだの奥底からこみ上げてくるような喜びは、得られなかったはずだから。

夫の絶対的な権力と暴力の下に、身をさらしている、たまらない不安と期待。私は自分

と自分の生活がいたい。

夫は、だから、私にとって満足である。私は、もっとももっともしいたげられてもかまわないのだ。

夫は、私がなんの失敗もしでかさないときにも、急に狂的になって、私をいじめだす。夫の目がへびのように光り始めて、私の全身をなめまわすようにしだすのは、その前ぶれなのだ。私は、とたんに全身がキューンと緊張して、期待の激しさに、小さな胸がコトコトと音を立てて鳴り始める。

やがて夫は、フラリと立ち上がると、そばにあるものさしでも、皮バンドでも、手ごろな責め道具をつかんで私に近づいてくる。

私は無意識に壁のほうへあとずさる。すると夫は、急に勢いづき、飛びかかるように、私のちぢこまったからだに第一撃を加えるのだ。横腹、背、お尻、鞭とところかまわず振りおろされる。私は、激烈な痛みにも、思わずもれるうめき声を必死にかみ殺しながら、四つんばいのまま、座敷をぐるぐると逃げまわる。しかし、夫は巧妙に鞭をふるいながら、私を座敷のすみに追いつめてしまうのだ。

ギリギリと光る目で、舌なめずりする夫に、私はせつなげな哀願のひとみを向けなが

ら、それとは全く裏はらに、からだの底からふるえてくるような歓喜に酔う。

夫にも以心伝心いしんでんしんにそれが感じられるのである。狂暴に私の着物をはぎ取ると、恥ずかしさにいっそう身をこごめる私の裸体に、夫は容赦のない攻撃を再開する。

手足の自由なままの私は、じかに皮肉を破って、食いこむ鞭に、もう恥も外聞もなく、ころげまわって悲鳴を上げる。

夫はそれを見ると、火に油をそそがれたように、いっそう狂暴になり、私に飛びかかってくるのだ。鞭を捨て、私のからだにむしゃぶりつくようにして、首すじ、肩、乳房、腹部、ところかまわずかみつく。そして、両手はその間も休みなく、私のお尻、股をつねり上げてくるのだ。私は、苦痛と喜悦のまじり合った感覚に、思わず気が遠くなって行く。

湯づけのお仕置き

さっき、夫が私に熱いお茶をひっかけた話をしたが、夫はどういうわけか、水とか湯とかで私を苦しめることを好む。

真冬の風呂場ふろばで私は、いきなりはいつてきた夫から、バケツバケツ一ぱいの冷水を頭からあびせられたこともある。

「ふわッ」

わけのわからない叫びをあげて、私はその場に飛び上がった。

「わっ、わっ、わっ、わっ」

私はなお激しくからだをけいれんさせ、足ぶみが続けながら、うつろな目をおびえたように、夫の顔に向けていた。

私が、夫のあとで、風呂にはいつていると、あがったはずの夫が、また裸になって、ツカツカ侵入してくることがある。そして、ものもいわず、私の湯ぶねにいっしょに飛びこみ、いきなり私の首をかかえると、お湯の中へ沈めてしまうのだ。

不意をくった私は、したたかに湯を飲み、苦しさは夢中であられるが、夫は私が絶息する寸前まで、決して許さない。

鞭打たれるときには、強烈な痛みとともに、いうにいわれない陶酔も感じるが、これは、夫のからだに爪を立て、ひっかいてしまうこともある。すると夫は、罰だといって、タオルでしっかりと、私の手首を縛ってしまう。そして両足首も……。

湯ぶねから出た夫は、こんどは私だけをその中へ投げ入れる。

おお、それがどんなにおそろしいことか、

経験したものでなくてはわかるまい。

顔から先に湯の中へつけられた私は、不自

ている、

私は、まだ湯の中へ沈み、両手足を縛られ、たまらない不安に逆上しながらもがき続ける。

気が遠くなると思う瞬間に、私はやっと浮き上がる。あえぐような息をつくひまもなく、夫の手がまた私の両足をぐっと上にひっぱる。ひとたまりもない。私はまた上半身を湯の中へ沈まされて、縛られた両手を死にもの狂いに突き出しながら、必死の力でもがく。

苦しい！ 苦しい！ もうダメ私はついに失神してしまう。

しかし、失神まぎわの、すーっと意識を失って行く、なんともいえないよい気持ちも、私は、忘れることができない。

気がつくと、私は夫の胸にしっかりと抱きかかえられている。私はいまごろになって、「かんにんしてえ、かんにんしてえ」

と、しゃくり上げ始めるのだ。

夫はこんどこそ優しく、私のからだをなで続けてくれる。



こういうときの私のうっとりした喜びは、ほかにたとえようもない。

いつもひどいめにばかり合わされているので、たまに優しくされると、幾千倍もうれしいのだ。

夫は、いつも私をすっかりいじめ尽くすと、このように優しく抱擁してくれる。私にとって、いじめられる喜びとともに、それも一つの大きな楽しみである。

夫は、それどころか、私をさんざんいじめておいて、急に私にすがりついて泣きだすこともあるのだ。

私は、ちょっと面くらってしまうが、優しく夫のうなじを愛撫する。私の胸が夫の涙ですっかり濡れてしまう。こういうとき、私は愛されている、夫は私に愛を求めている、とほがらかに思うのだ。

夫は孤独なのだ、私のほかにだれも夫を完全に理解してあげる人はいない。

私だけが、彼を理解し、彼をなぐさめ、彼の感情と欲求を全的に満たしてやることのできるのだ。

しかし、それは、私にとっても同じなのだ。

私だって孤独だ。私の完全な理解者、私の

願望をすべて満たしてくれるような男性は、彼をおいてない。

私たちは、深いところでしっかりと結びついている。凸と凹のようにはぴたりと合致するのだ。

夫は私をいじめる、しいたげる、奴隷のように扱う、私は確かに、主人か、王様に対するようにつかえる。

しかし私は、夫に、ゆ、りん、され、しいたげられることがうれしいのだし、夫は、私を手ひどくいじめながら、一方で私に甘えているのだ。

私たち夫婦を、ただ時代錯誤だといって笑う世間は、本当のことをなにも知っていないのだ。

ニューフォトのセクシードレス

お待ちかねの新製品発表!

ビキニパンティと対のブラジャー4種、バタフライ
アミタイツ、コルセット、花ガーター等

(サービスとして1,000円以上お買上げの方に幸運のマスコットハンカチーフ進呈)

(例一) 左写真

No. 4 マンハント型

和服とチャイナ服との良さを
取り入れたデザイン。
ウエストまである裾割れから
パンティがのぞく。

生地…サテン花模様

ナイロンパンティ付

¥ 2,300 ㊦ 100

(例二) 右写真

ビキニ A

グットくるデザイン。前面三
角形にカットされたレース付
パンティと対のブラジャー。

生地…サテン赤水玉模様

¥ 1,000 ㊦ 60



(30円切手同封、雑誌名記入、申込みあれば直ちに各種ドレス、下着類のカラー写真入りカタログ送呈します)

東京都杉並区大宮前 6-412

ニューフォト社洋品部

大正、昭和初期の

艶麗緊縛場面さし絵さわり集

（カット写真版は「血の涙蛇供養」仁尾久子作
画家不明）

藤 川 潤

小説とさし絵

昔は、といっても、大正末期ごろまではさし絵は、小説の従属的な位置を出なかった。つまり、単に小説の伴奏的役割りにすぎなかったが、それがやがて、さし絵独自の価値が高められるようになり、小説の本文だけでは味わえない性格を、さし絵によって表現されるようになった。

新聞・雑誌の小説には、さし絵が重要な役割りをになって、その小説をいっそう興味ふかくしていることは衆知のとおりで、さし絵を切り離しての小説は考えられなくなった。

現在、新聞・雑誌は、さし絵家の選定には非常に苦心が払われるといわれている。





上「剣遊夢偶儼」

小田とみやえ

下 題名不詳 金森観陽え

縛場面が随所に見られ、マニア諸氏には、毎日の新聞が待ち遠しかったことを記憶されていることだろう。

そこで、かつて新聞・雑誌に掲載され、好評を博した緊縛場面から、とくに凄艶な構図を選んで、思い出ばかりいさし絵を集録してみた。

小説にマッチしないさし絵だと、小説自体までがおもしろくなくなってしまいうから、読者がついてこないということになる。作家の肌あいをよく知っていて、小説に登場する人物を適確につかんでいるさき絵だと小説をいっそうおもしろくする。

戦前、読売新聞に連載された邦枝完二作の「おせん」や「お伝地獄」は、小村雪岱の艶麗典雅な浮世絵的画風が評判を呼んで、当時、読売新聞の購読者数をウナギ登りに激増させたといわれたくらいだった。この「おせん」や「お伝地獄」のさし絵には、雪岱画伯の余韻（よゐん）じょうじょうたる緊

に便ならしめるため、二、三のさし絵について、その原稿の一部を抜粋してみた。



地獄絵

——それからいたわるように、己代子に長じゅばん一枚になんてくれないか、と要求し



昭和初年 講談雑誌所載
「地獄絵」画家不詳

資料の収集には一方ならぬ苦心をした。そのため、最初は、各さし絵に漏れなく小説名、さし絵家名を解説する予定だったが、不明のものがあつたりして、それができなくなった。が、できるだけ観賞

た。彼女は黙ってうなずいた。同時に、男の手が帯にかかって、するすると着物がはがされた。彼は、黙って自由になって、己代子を、満足そうに眺めがら、

「すこし、痛いかもしれないよ」と、緋鹿の子のシゴキで彼女をうしろ手に縛った。

それから毎晩のように、彼女は、その男の席によばれた。男は緋縮緬の長じゅばんを着てこ



報知新聞連載「轟一平」
野村胡堂作 岩田専太郎え



らこれにするよ」といって、荒縄で彼女を縛ったりした。

己代子は、なんだかおもちゃにされたり、愚弄されたりしているように感じたが、荷物のように部屋の中へ投げだされたり、床柱へ結びつけられたり、髪の毛をもって部屋中を引きずりまわされたりしている

いとか、そのうえから締めるものは、伊達巻きでなく、芝居ふうのシゴキのほうがいいとか、注文を出すようになった。

そして幾日目かには「すこし痛いけど、きょうは用意してきたか

うちに、不思議な欲求を感じるようになった。

という一節があるが、遺憾ながら、さし絵はだれのものかわからない。この小説は何かネットリとあぶらっこいタッチで、ある変質者の行状と、その犠牲になる少女のゆがんでゆく過程を綿々（めんめん）とつづっている。

——赤い長じゅばん一つで、半裸にされた己代子は麻縄で高手小手に縛られ、口には猿ぐつわがかまされ、結い上げたばかりらしい島田が、がっくり根がぬけて、床柱に、まるでハリツケのように縛りつけられていた。

明るい電灯がふりそそいで、柔らかい胸





のあたりにくっきりと陰影をつけていた。

「おかしいわねえ、何をしているのかわかりやしないわ……あの部屋へはだれも入れさせないんだから……」

宿の女中たちが、ヤキモキする——
といったぐあい、その部屋のふたりが、どんなふうになるのか、それこそ読者のほうがヤキモキしてしまうだろうが、惜しいことに、この小説は肝心なところが紛

「浪人倶楽部」
村松梢風作
小村雪岱え

失ってしまったていて、これ以上お伝えできないのが残念である。

浪人倶楽部



邦枝完
二と小村
雪岱のコ
ンビで
「おせん」
や「お伝
地獄」が
決定的な
人気を博
したこと
は、冒頭
にも述べ
たとおり
だが、「浪
人倶楽

部」も、村松梢風と同じく小村雪岱とのコンビで噴々たる好評を博したものだ。

——「ヤイ、お西待て！」
といったのは、鐘鬼の五郎兵衛だった。
「だれだか知らないが、わたしや、お西な

んていう人は知りませんよ。人違いですよ」

「何をぬかしやあがる。鐘鬼の五郎兵衛の目は節穴じゃねえや。だが、今夜は手前に用があるわけじゃねえ、こっちの女に用があるんだ」

いきなり、お秀の腕をつかんだ。

「あれ、何をする！」

と振り払おうとしたとき、五郎兵衛の乾分どもが一度にお秀に飛びかかった。

「おまえたち、何をするんだ！」

驚いてお秀の側へ寄ろうとするお西を、

「邪魔しやがるな！」

五郎兵衛が、大力でドンと突き飛ばした。

「構わねえから、早く阿魔アふん縛って駕の中へ押しこんじまえ！」



高鼻華宵え

お秀は抵抗しようとしたが、相手は数名の荒くれ男、たちまち紐で縛られ、駕の中



講談倶楽部所載「愛憎秘刃録」山川秀峰え

「これから先は、いわずと知れたお女中としっほり……お羨ましい濡れ場と出ようと

いうのに、こんなが野郎いちゃア気がききませんから、お暇をもうしますが、へへへ、殿様、若いやつらに品川で女郎でも買わしてやりとうございますから、お約束のものを頂戴しとうございます」――。

というわけで、五郎兵衛は左近から十両の金をもらって、乾分たちと引きあげてゆく。そこで左近は、お秀のかたわらへ寄ってゆき、縛められたお秀の猿ぐつわだけは取ってやるが、縛ったまま、すわらせる。

お秀は顔を上げた。島田が半分こわれ、乱れた髪がパラパラ顔にかかっている。

激しい憤りのため、まなじりが吊り上がっていた――。

とあるように、この助平

へ押しこまれてしまった。

「アレー、誰かきてエ……助けてエ」

と金切り声で呼びながら、武者ぶりつくお西を、五郎兵衛が拳を固めて殴りつけたもので、お西は気を失ってぶっ倒れた。そのひまに、駕はもときたほうへ向かってドンドン走って行った。

――五郎兵衛は、奥まった一室へお秀を押しこめておいて、左近のいる座敷へやってきた。

「ウーム、五郎兵衛、大儀であった」



江戸囃男祭

題名不詳 河野通勢え

野郎は、自由を奪った女を、ためつすがめつ、まるでネズミを捕えたネコのようにながめまわすのである。



題名不詳



「江戸囃男祭」鈴木氏亨作 小川青霞え

かかって命を落としたとしたら、淨瑠璃やお芝居くらいにアなるだろう。斬れるものなら、ひと思いじゃ曲がない。さくさくにするなり、膾にするなり、好き勝手にするがいいや」

そういうと、おとらは膝もとにあった杯洗を、右の足でпойと蹴とばしました。

「こいつ、酒落た真似をしやあがる！」

怒りを露骨に現わした坂内六角、そういうと、遠臂を伸ばして近江宗次の一刀を、おとらのふくよかな太腿にぶつつり突きたてました。

真紅な血が噴水のように噴きあげて、なまぐさいにおいが一同の殺気と興奮をそそり立てます——。

おとらが、縛られたまま太腿を突かれてこの構図は、ちょっと異色。苦痛をこらえ、グッと相手をにらみすすめる女侠客の意地ッ張りの表情がよく出ている。

——「待て、待て、わしに考えがある」六角が手をあげて一同を制した。

鈴木氏亨作、小川青霞さし絵のこの小説は、おなじみの幡随院長兵衛の女性版といったところ。

恐ろしく気の強い女侠客が、喧嘩相手の御家人屋敷へ単身で乗りこんでゆく一節がおもしろい。



題名不詳 神保朋世え

「こいつを素ッ裸にして、天井へくくりつけ、季節向きのあんこうの吊るし斬りをやるのだ！」
 おとらは、両手両足を荒縄でくくりつけられ、軒先に吊り下げられた獲物のウサギのように、半裸の姿です。
 その無残さは、何人といえども目をそむけるばかりです——。
 ということになり、凄艶な吊り場面が新聞に二、三日つづいた。
 また、昭和十四、五年ごろ、歌舞伎などで有名な「加賀騒動」の浅尾の蛇責めが新聞に連載されたが、これも大変な人

気だった。

宝井琴凌口演、神保朋世さし絵で、画伯

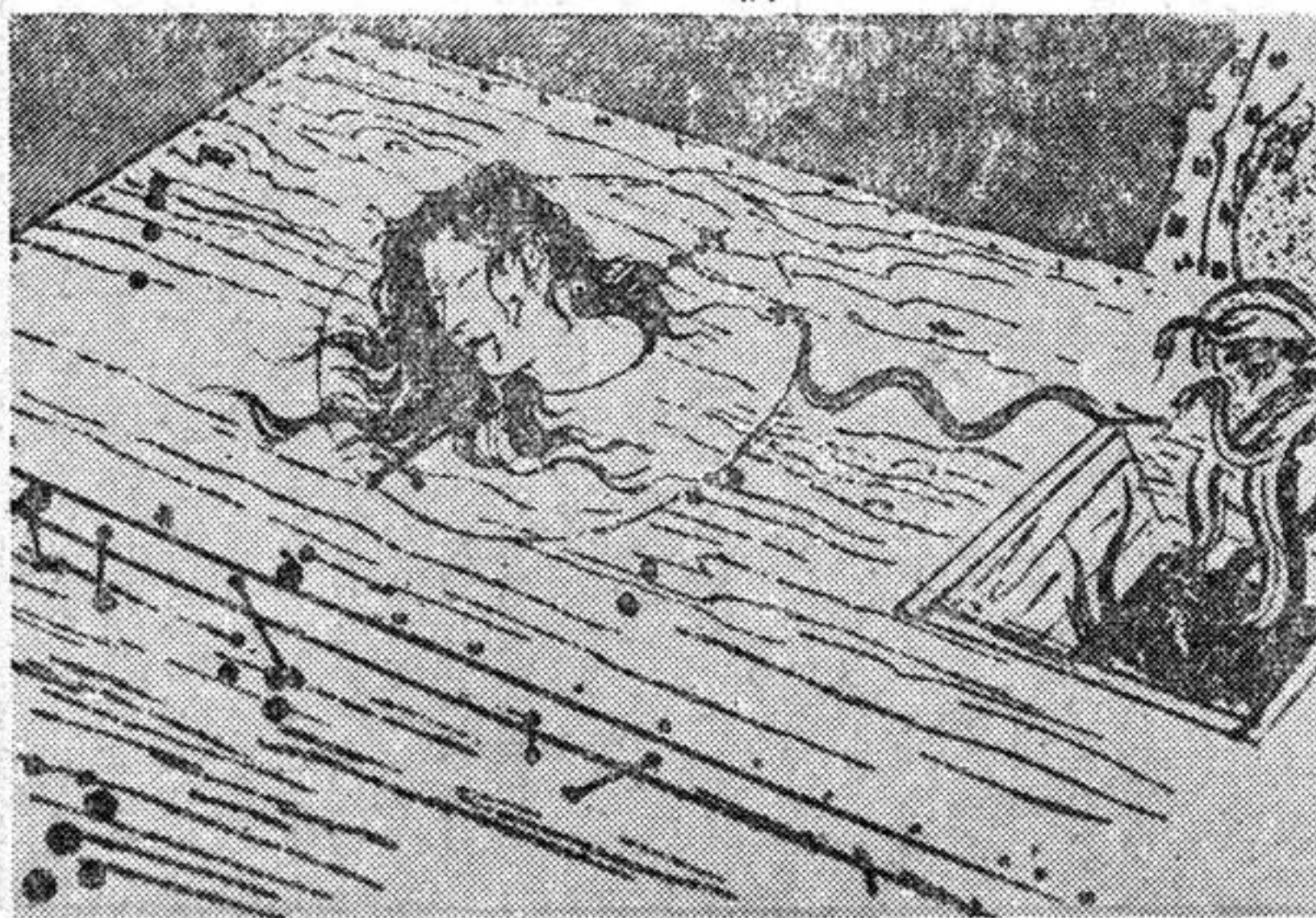


「美男狩」野村胡堂作 鈴木朱雀え

の最も円熟した画風が、読者をじゅうぶんに堪能させて大好評だった。

宝井琴凌口演「加賀騒動」

神保朋世え



悦虐の果てに

——ゆがめられた情欲の狂宴——

安 永 明

変死した昔の恋人

一九五三年春のある朝、パリの新聞は一斉に『カラ・アーヴオン男爵夫人、奇怪な変死』という見出しのトップ・ニュースを報道した。

それによると、パリのスラム街のきたないホテルで、一糸まとわぬ夫人が、女のいのちの部分と臀部とに、赤く焼いた鉄棒をあてられて殺されていた、そして彼女の美しい肉体は一面に、やけどの跡や、ひっかき傷、ペンチで肉を引きちぎられた跡がついていた、というのである。

そして、このカラ・アーヴオン夫人こそ、私が、はるばるアメリカから捜しにきた、かつての恋人だったのだ。

十五年前、私は、アーヴオン夫人と、パリ



で知り合った。そのころ夫人は、すでに未亡人であった。そして、死んだ夫に教えられたのだといって、真夜中の公園で私と会々と、決まって、その白いからだに骨がしなうほどムチをふるわせたり、肉がちぎれるほど歯でかませたり、ローソクの火で焼かせたりさせた。そんなことをして、明け方になると別れねばならないふたりの仲だった。

彼女は、よく私に言っていた。

「夫の望みは、あたしがよろこびの極に達したとき、焼けた鉄棒をからだに差しこんで、あたしをそのまま殺すことでした。夫に言わせると、女にとって、これ以上すばらしい殺され方はないということでした。でも夫は、それを果たさずに死にました」

私たちの恋は三カ月つづいた。そして戦争がふたりのあいだを引き離してしまった。

いつか十五年の歳月がたって、私は彼女を捜しに、ふたたびパリを訪れ、そして彼女の変死を知ったわけだ。

私は、新聞社に問い合わせて、彼女の住所を聞くと、さっそく電話した。たしかアンゼラという娘がいたはずだと思い出したから。電話の向こうには、若い娘が出たが、すぐに、

「ハワードさんでしょう。お待ちしていましたのよ」

と言った。私はびっくりした。娘の声はつづいて、私に渡してくれと母に頼まれたものがあるという。私はすぐ尋ねた。

アンゼラはすっかり成人して、美しい娘になっていた。そして私に、一通の封筒を渡してくれた。それには、六人の男の名まえが書いてあり、つけ加えて、

「あなたとお別れしてのち、あたしがたどった狂気のような愛欲の道を、この六人の男が知っています。どうぞ尋ねて、あたしのことを聞いてください」
とあった。

三つ巴の愛欲

一番めの男は、ピーター・フォン・ドロットという写真家だった。私が尋ねていくと、



「おお、ハワードさん、わたしは十年以上も
あなたを待っていましたよ」

と、迎えてくれた。それから、カラ・
アーヴォン夫人について話してくれた。

——ドロットは、夫人のヌードを撮影する
ために、彼女の家へよばれた。そしてつい
は、彼女は、自分で、その美しい肉体に、ド
ーランと口紅で化粧して、その写真をカラー

でとるように、かれに言いつ
けた。

彼女は、乳首をまっかに塗
り、乳房を美しく化粧し、そ
してしまいいには、白粉と紅で
女のいちばん大切な個所まで
彩色をほどこして写真にとる
ことを要求した。

それが毎日つづいた。そしてある日、ふた
りだけの部屋にひとりの少年がよばれた。夫
人は、ドロットの前で、その少年と情痴の限
りを尽くした。そのあげく、夫人は、かれに
もその仲間に加われといいたした。

こうして、とほうもない三人の関係がしば
らく続いた。少年はジーンといったが、夫人
とジーン、夫人とドロット、ジーンとドロッ
トという三組の組み合わせのほか、三人がも
つれあうたわむれさえなされたのだった。

そしてある日、夫人のことで、ドロットと
ジーンはけんかをはじめ、ドロットは、ジ
ーンを、打ったり、けったりした。するとジ
ーンは、興奮した声で、

「もっと打って！ もっと強く、もっと、も
っと強く打って！」



といい、彼虐にむせぶ少年ジーンと、写真師は、肉体と肉体をぶつけ合って、陶醉したのだった。

だが、そのとき、夫人から別れの手紙がきたのだった。

森の中の狂宴

その次に、私が尋ねたのは、その少年ジーンだった。

あちこち捜して、やっと下町の安ホテルを

つきとめた。一目で連れ込み専門だとわかる感じのホテルで、門番にジーンのことを聞くと、

「ジーンは今いませんが、かれの情婦がいますから、聞いてもらいなさい。十七号室ですよ」

と教えてくれた。

ノックすると返事があったので、はいってみると、裸の女がひとり、ベッドに寝ていた。

「ジーンさんはいませんか」

と私がいうと、女は、

「ジーンを尋ねてきたのかい」

「ええ」

「じゃあ、いるところを教えてあげるけど、そのまえに、あたしをうんと強くぶっつけておくれ。ここ二、三日、だれにも打ってもらえないから、あたしは寂しくてしかたがないんだよ。あたしを満足させてくれたら、ジーンのいるところを教えてあげるよ」

しかたがないので私は、彼女がさし出す皮のムチで、力いっぱい彼女を打ちすえた。ところが彼女は、口ほどにもなく、大声で泣きわめき、涙をポロポロこぼした。それでも、「でも打って、あたしは、好きで泣いているんだから」

といい、彼女の皮膚がすっかり破れて血まみれになったとき、彼女は、息をあえがせながら、ジーンのいるところを教えてくれた。

ジーンはなかなかカラ・アーヴォン夫人のことを思い出さなかったが、やがて話し出した。

——別れた当座は、ジーンはアーヴォン夫人に会いたくてしかたなかったが、どうしても会ってくれなかった。ところが五年たって忘れるともなく忘れていたある日、パリの郊



外のカフェで、偶然に出会った。

そのとき彼女は、六十ぐらいの老人といっしよに、森の中へはいって行った。夫人は、少し太ったが、ものすごく美しかった。

あとをついていくと、夫人と老人は、森の奥の人目につかないところへ行行って、彼女は着ているものを全部脱ぎすてた。そして四つんばいになった。

すると老人は、枯れ枝を拾って、夫人のまわりをぐるぐると回りながら、その裸身を打ちはじめた。

夫人の美しい肌に、枯れ枝のムチがしまのようにつき、皮膚は破れて血がにじみ出ると、老人はますます元気になった。そしてそれを見ているジーンを見つけると、

「その若いの、仲間にはいってくれないかね」

という。そこで、ジーンを加えた三人の狂ったようなたわむれが一晩じゅうつづき、明け方になって別れた。

それ以後、ジーンは、夫人に会っていないというのだ。

夜の砂浜の情痴

三番めに尋ねたのは、チャールズという男



だった。かれは、カンヌに住んでいたのので、パリから飛行機でニースへ飛び、そこから自動車でカンヌへ行き、スーペリアホテルに泊まった。そしてチャールズを尋ねたのだ。

チャールズは、美しい三十歳ぐらいの夫人とともに迎えてくれたが、カラ・アーヴォンという人は知らないというので、やむをえず私はホテルに帰った。すると給仕が、留守中に二つ電話があったという。

一つはチャールズからで、『もちろん知っています。今晚十一時にホテルで会いたい』というので、もう一つは意外なことに彼の夫人からで、『明朝二時に庭で待っています』というのであった。

やがてチャールズが尋ねてきて、海岸まで行こうと私を誘い、そして話しはじめた。

——チャールズが、アーヴォン夫人に会ったのは、ひじょうに暑い夏の夜で、ひとりで



泳いでいると、百メートルほど向こうに止まった車からひとりの女が出てきて、砂浜で全裸となり、腕を悩ましげに上げ下げしている。チャールスは足音を忍ばせて、その背後に回り、いきなり彼女を砂浜にころがしてしまった。そしてふたりは、お互いにどこのだれともわからないまま、ただ夢中にふさけ合い、情感をつくし終えた。

すると、その女は、チャールスに「からだじゅうをかんで」「強くたたいて」といいだした。

そこでチャールスは、砂浜にころがっている彼女を、ところきらわずかみ破り、手のとどくかぎり強く打った。

ふたりは夢中になり、海の中にまでころがりこんだりしたが、やっと離れたとき、彼女は、

「ありがとう、すばらしかったわ」

といった。それがアーヴォン夫人だった。

そして彼女は二月間カンヌにいて、突然、どことも知れず立ち去ったというのだ。

チャールスが帰ったあと私は、チャールス夫人に言われたとおり忍んでいた。美しい夫人は、私を待っていて、熱いキスをかかわして言った。



「あたくしには夫があります。ですから、このままでは、あなたと愛し合うことはできません。どうか、あたしを縛って、抵抗できないようにしてください」

といった。私は、いわれるままに彼女を縛りあげて、情痴の限りを尽くした。

ザーメン風呂で

四番めに尋ねたのは、カンヌからパリに戻って、レックスという男だった。

——レックスは、男でも、女でも、子供でも見境ない情欲の持ち主だった。母が死んでから、酒に酔った父に幾晩も犯されたり、父が再婚すると、義母の情夫にされたりしたというおいたちのせいもあったろう。

そしてある晩、金持ち階級だけの仮装舞踏会に出かけた。そこで、踊っていると、ロビンフッドの服装をした男が目についた。かれ

はヒゲをはやし、タイトの前は、偉大な男性のシンボルをあきらかに示していた。

レックスはその夜、女装してシンデレラの仮装だったので、さっそく近づいて、

「今晚は、ロビンフッドさん、踊ってくださいませんか」

といって、ふたりは手を組みあい、踊りはじめた。

踊るにつれて、レックスは、情欲の高まるまま、その男を裏庭へ誘った。

ところが、裏庭のベンチに腰をおろすと、ロビンフッドは、レックスのスカートの下から、すでに勢いを示している男の証拠を見つけ出した。しかしレックスもまた、ロビンフッドの胸から乳房をつかみ出した。

かくてふたりは、お互いに、女装、男装のまま、芝の上で情熱を燃やした。そのロビンフッドが、アーヴォン夫人だったわけであ

る。

それがキツカゲでふたりはしばしば会い、レックスは、ザーメン販売人から大量の液体を買い入れて風呂をたて、その中でふたりは異常に燃えたのだった。

だが、つき合いは二カ月しかつづかなかったという。

意外な六人めの男

五番めは、エンマという女だった。だが、私とその家を探ねてみると、彼女は、からだを鎖で縛られていた。そして、

「カラ、カラはどこにいるの」と口走るだけだった。

狂っていたのだ。私はむなしく、そこを辞して、六番めの、つまり最後の訪問者を探ねることとした。

モントローズという男で、スペインとの国境に近い、ある小さな村の郊外にある城に住んでいる男だった。

私が尋ねて行くと、その男は、

「なににきたのです？」

と、とがめるように言った。そのとき私の頭に、ふと、一つの考えがひらめいた。そこで、

「カラが死んだのです。私は、その犯人を捜しにきたのです」

という、その男は、ぐったりと椅子に腰を落として話しはじめた。

「そう、あなたが疑ったように、わしはアーヴォン男爵だ。つまり、カラの夫だ。まあ聞いてもらいたい。わしは、早く死んだことにして、カラを未亡人として自由にふるまわした。ただ、カラが四十歳の誕生日を迎えたとき、わしの決めたやり方で殺すということを

条件にして、カラの好きほうだいさせてやったのだ。事実カラは、好きがってにふるまった。

そして今年の春、とうとう約束の日がきたのだ。

その日、わしは、アルコール・ランプと、鉄の棒をもって、場末のホテルで、カラと会った。

そこで、わしは、カラに、じゅうぶんのサ―ピスを要求した。そしてわしもまた、カラ

をじゅうぶん喜ばせてやることに努めた。

『いいね、この世の最高のよろこびと同時に最高の死が待っているんだよ』

とわしがいうと、カラは、

『いいわよ』

と喜んで答えた。

この最後の交歓は、わしの体内のすべてを燃やして努力したし、カラもまた、全身全霊をあげてこたえた。

そうしているうち一方で、アルコール・ランプで鉄の棒を焼いておいたわしは、カラが最高の情感に身をひたしているとき、ひと息に押しこんだのだ。

肉の焼けるにおいととも、カラは死んでいった。……死んでいった」

語り終わると、アーヴォン男爵は、私に静かに握手を求めてから、隣の部屋へはいっていった。

やがてピストルの音が隣室でした。

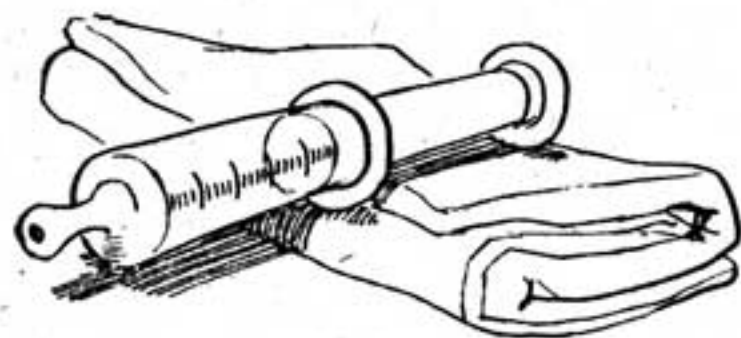
私は、その自殺を確かめる気にはなれなかった。そのままパリへ戻ったが、途中で、六人の名まえを書いたリストを破りすてた。

パリへ帰った私は、アンゼラに事の次第を語る気にはなれなかった。すぐにアメリカへの飛行機に乗ってしまった。



＜告白＞

浣腸ふたりプレイの記



夏 川 絹 子

玲子さんの出現

ある日、会社の友だちで、玲子さんという、ことし十九歳になる人が、あたしの家に遊びにきました。

あたしは、お茶を入れるためにお勝手に行って部屋に戻ると、彼女は、あたしの本棚から、『風俗奇譚』を取り出して読んでいます。ありませんか。

「あら玲子さんも、そんな本読むの」

と声をかけますと、

「いいえ、あたし始めて読んだわ、すごい本ね、絹子さん、この本おもしろそうだから、あたしに貸してくださいませんか」

「ええいいわ、よかったら二、三冊持って行きなさいよ」

あたしは、そんなことをいいながら、もしかしたら、彼女をパートナーにできるかも知れないと思いながら、その日は別れたのでした。

私は浣腸マニアですし、浣腸プレイのパートナーを物色していたのです。ですから、そんな玲子さんの出現は、私にとって思いがけない希望を与えてくれました。

次の土曜日の夜、玲子さんは、あたしの家

に本を返しにきました。

「どう、おもしろかった？ あたしは、この中でも一番、浣腸に興味があるのよ」

「ええ、とてもおもしろかったわ、また貸してちょうだい」

と玲子さんも、まんざら、きらいでもないようなそぶりです。

それから何回となく、本を貸してあげたりしているうちに、あたしは、今度あたり実行に移してみようと決心をしました。

そこで、玲子さんが尋ねてきたとき、あたしは、

「この二、三日、便秘していてとても苦しいの、これから浣腸するのよ、ちょうどよかったわ、あなたも便秘症ならするといいわよ」

思いきってそう話しかけてみました。玲子さんは一瞬、顔を赤くしましたが、

「じゃあ、あたしもやっていたかどうかしら。今までイチヂクでしていたんだけど、こんな大きなガラスのは始めてだわ。気持ちが悪くならないかしら」

と、あたしの話にのってきました。

「平気よ、あたしがじょうずにやってあげるから」

とうとう玲子さんを、浣腸するように、と

もっていってしまいました。
 当分はしかたがないから、ガラスだけと思
 い、玲子さんに浣腸の味を、少しずつしこん
 でゆきました。

空気注入で大きな音

玲子さんが、ガラスにだいぶなれ
 てきましたので、今度はだんだんに
 大がかりにしていこうと思いましたが、
 なかなかチャンスは訪れてきま
 せん。

しかし、ある土曜日、父母は宮城
 県の親類におめでたがあつて泊まり
 がけで行くことになったのです。あ
 たしは、さっそく玲子さんを家に泊
 まりに来るよう誘いました。

「きょうは父母がいないから、あた
 しといっしょに留守番にきてよ。さ
 みしくて困るから。そして、ふたり
 で盛大に浣腸プレイをしない？」
 「ええいいわ。あたし、家に電話し
 て、社の帰りにいっしょに行くわ」
 と、玲子さんも同意してくれまし
 た。

「じゃ、お互いに今夜のために、い



ろいろな方法を考えましょうよ、もちろん、
 秘密にして、家に帰ってから公開するのよ」
 あたしの提案に、玲子さんももちろん賛成
 しました。
 あたしは、昼休みに、卵、ピンポン、ソー
 セージ二本を買いました。そして、玲子さん

はどんな手を考えているかしらと思ってみた
 だけで、身内がゾクゾクしてくるのがわかり
 ました。

その夜、風呂場でさっそくプレイをしま
 す。あたしは、エネマを持ち出し、玲子さん
 にしてあげます。

50%溶液をビールびん一本つくり、注入し
 はじめますと、彼女は、始めてのエネマ注入
 で胸をドキドキさせています。

一本全部注入すると、さすがに苦しそうに
 肩で息をして、

「絹子さん、もうダメだわ、苦しくて、苦し
 くて」

あたしはそれでも、おさえている手をはな
 しません。そして、そのままの姿で排泄させ
 るのです。恥ずかしい姿で、前には大きな鏡
 があります。

玲子さんは、自分の姿を見て、恥ずかしさ
 で顔をまっかにしています。

そして今度は、あたしの番でした。玲子さ
 んは、あたしにお返しとばかりに、いきなり
 エネマで空気を注入しはじめました。溶液な
 らかなり多量にしても平気なあたしが、空気
 には、すっかり参ってしまいました。お腹が
 はってきて、その苦しいことといったら、とて

もとても、しんぼうできません。そして、とうとうがまんできずに大きな音をたててしまいました。

そして、自分のたてた大きな音に、思わず恥ずかしさが、からだじゅうを駆けめぐり、顔がカッカッとほてってしまいました。

ピンポン、ビール、

キンカン、ソーセージ、

今度は、玲子さんを思いきりいじめてやろうと思い、ピンポンにワセリンをぬり、いきなり押し込んでやりました。3コとも全部です。

玲子さんは、「痛い、痛い」といっていましたが、それでも、どうやら、受けつけました。

ピンポンがすみ、卵を3コ、やはり押し込みます。

ピンポンより大きいので、痛がって逃げられてはと思い、手足を四本の柱に分けてしばらく、四つんばいにしての施術です。

お尻をくねくねと動かして、なんとかのがれようとする玲子さんを、むりやりにおさえつけてしまいました。

そして、また出させるのです。このニワト

リ遊びはなんというすばらしさでしょう。

タマゴを産むときの痛さ——あたしはよく知っています。玲子さんも、局部が赤くはれあがっていて、その中からちょっと白く見えきます。それがまたひっ込んでしまいます。苦しんでいるのが、よくわかります。

「絹子さん、痛いわ、とても苦しいわ」

あたしはかわいそうになり、エネマでストレートの溶液で浣腸してやり、助けてあげました。

今度は、ビール責めです。二本ばかり注入しますと、玲子さんのお腹はプクプリとふくらんできます。なおもエネマを押し続けますと、一ぺんに大きな音とともに排泄してしまい、放心したようにグッタリとしてしまいました。

絹子が責められる番になり、玲子さんは、脱衣所のほうから何か小さなビンを持って来ました。そして、いきなりガラスであたしに注入します。あたしはとびあがってしまいました。

「玲子さん、あなた、何を入れたの、すごくヒリヒリするわよ」

といいながらも、あたしはがまんできなくなり、排泄してしまっただけですが、そのビン

は、なんと、皮ふ病薬のキンカンだったので。とうとうその晩は、痛くて一眠りもできませんでした。

あたしは、何かお返しをしなければと思い、ソーセージを一本全部使ってあげました。

「痛いッ」

とさけぶ玲子さんに、

「少し待ちなさいよ」

といって、庭からあたしの愛犬ラッキーを連れて来て、

「さあ、いいわよ、少しずつ出してごらんなさい」

そしてラッキーを近づけました。

ラッキーは大きなセパードです。少しずつ出て来るソーセージを、おいしそうに食べています。玲子さんは、恥ずかしいのか、逃げようとしませんが、手足がしばらくられていますので動けません。

ラッキーは、うまそうに食べ終わると、口のみわりを、ペロペロとなめます。玲子さんは、くすぐったさと恥ずかしさで、からだをくねらせています。

こんな彼女の姿をみて、あたしは、さっきのキンカンのお返しができた、思わずニヤニヤしてしまいました。

虐殺指令

②

—ハバロフスク細菌戦裁判—

細菌による大量殺人を企図した関東軍幹部たちが告白するペスト菌、壊疽菌などの恐るべき生体実験と囚人虐殺の真相！

真野麗

江馬美久・え

地獄への道を駆ける車

裁判二日目の十二月二十六日、朝の光がさしこむ法廷で、柄沢十三夫被告にたいする検事尋問がおこなわれていた。

柄沢は男ざかりの三十四歳。長野県に生まれて、東京の医大を卒業するとともに、軍に勤務し、第七三一部隊には一九三九年（昭和十四年）十二月から一九四四年八月まで、「死の工場」の製造部に勤めて、同部の製造課長、軍医少佐の地位についていた。

（問） あなたは海拉尔、孫呉および林口、汝林の各駅、牡丹江市



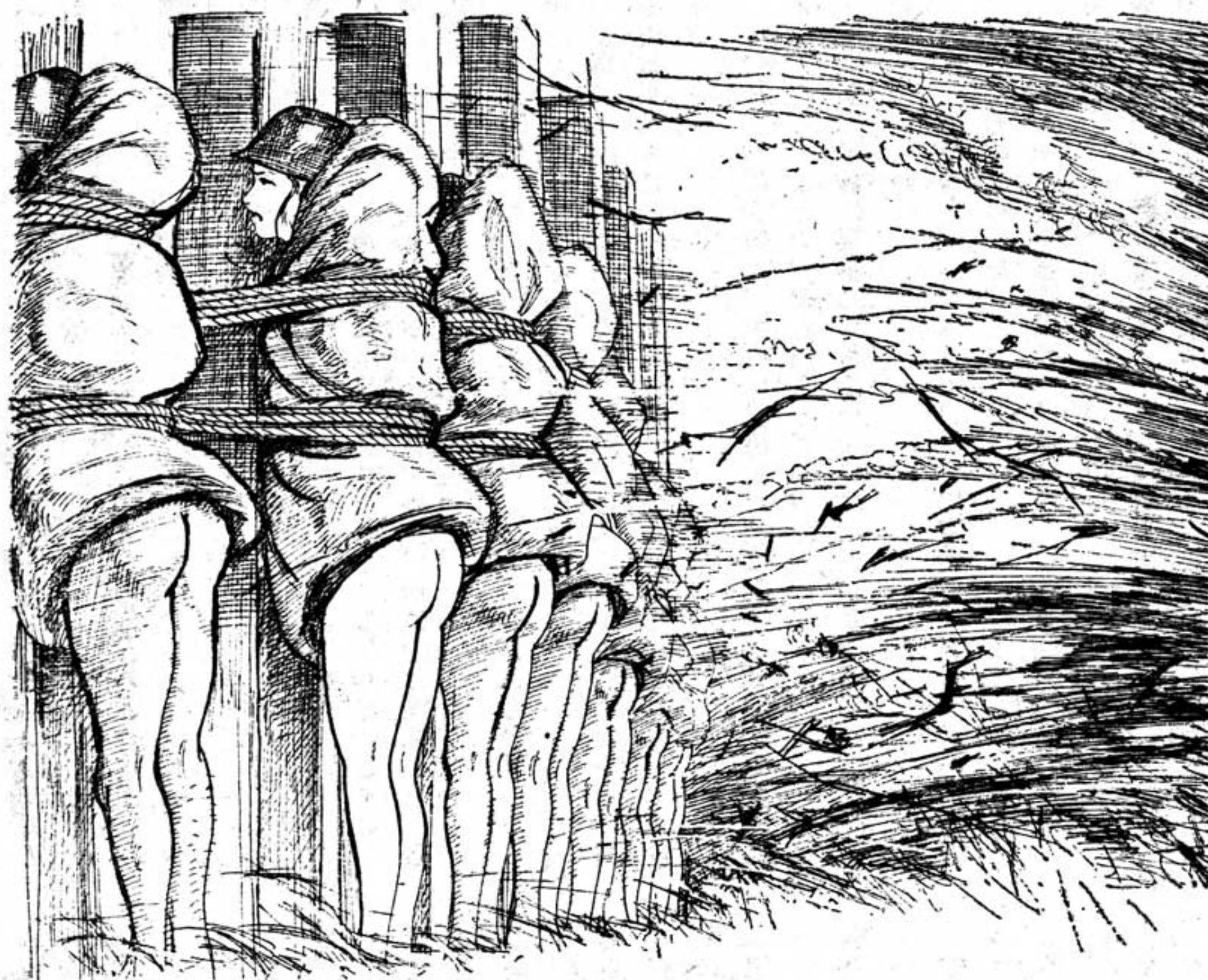
近辺などに配置されていた部隊の支部に行ったことがあるか？
（答） 部隊長の命令によって、各支部に一回ずつ出張したことがあります。

（問） 出張の目的は？

（答） 第一の目的は、細菌の大量生産部門における部隊の生産能力を増加すること、第二の目的は、アメリカとの戦争開始に関連して、敵空軍の攻撃下においてさえも生産の続行を中止しないように、アメリカ空軍の爆撃にあたって、部隊の生産設備を事前に分散することが必要でありました。

（問） 第七三一部隊は、各種伝染病にたいするアメリカ人の免疫性の研究に従事していたか、どうか？

（答） 一九四三年のはじめのことだったと記憶しております。当時、私は奉天の病院に入院しておりますが、私のところへ、部隊の研究員湊が尋ねてきまして、自分の業務について私に知らせました。彼は、アメリカ軍の俘虜の免疫



性に関する問題を研究するため、奉天にすることを語りました。湊は、各種伝染病にたいするアングロ・サクソン民族の免疫性研究のため、第七三一部隊によって、特に連合国軍の俘虜の収容所に出張させられていたのであります。

(問い) アメリカ軍の俘虜の血液の特質研究も、この目的で行なわれていたのか？

(答え) 全くそのとおりであります。

(問い) あなたは俘虜を使用する実験に立ち会ったか？

(答え) 二度、立ち会ったことがあります。

柄沢が立ち会った第一の実験は、大戦もたけなわの一九四三年（昭和十八年）末のある日のことであった。

部隊の第二部が炭疽菌たんそきんによる人間の感染実験をおこなうというのである。この年のはじめ、前の製造課長鈴木少佐が転任したあとをうけて、課長に就任していた柄沢は、第四部の責任者として実験に立ち会わねばならなかった。

部隊所属の監獄から一〇名の俘虜が、この日の実験の対象として引きだされた。いずれも関東軍憲兵隊と陸軍特務機関とが実験のため、ここに送致した中国人・ロシア人・満州人などであった。なかにうら若い女もまじっていた。

十人の囚人は、数珠じゆしゆつなぎとなつて係りの部員のあとにしたがい、部隊中央建物の地下に設けられたトンネル状の秘密通路を通過して戸外に出ると、すぐに、窓のない黒塗りの特別自動車にはおりこまれた。

囚人自動車と部員たちを乗せた車と、二台の車が冬枯れの

かわきぎった道路を、ほこりをけたてて走った。前車の中の俘虜たちにとっては、地獄への道を……。

まもなく車は安達実験場に着いた。囚人たちはおろされて、場内野外に五メートル間隔でたてられた特殊の柱に、ひとりずつ縛りつけられた。

被実験者から五十メートルほどの地点に、炭疽菌を填めた榴散爆弾が布置された。

係りの部員が、榴散弾に電流を通じた。しゅるしゅる、しゅるしゅる……という気味のわるい炸裂音。轟然、榴散弾は爆発した。散乱する榴散弾子。

破片弾をうけた一部の囚人は、負傷して血まみれとなっている。弾子をうけない者もなかば死んだようになって……。

負傷者は炭疽に感染したことが確認された。かれらにたいしてある措置が施されたのち、囚人一同はふたたび部隊に連れもどされた。

その後、柄沢少佐は、炭疽に感染した被実験者が苦悶しつづけながら死亡したことを、報告によって知った。

柄沢が二度目に実験に立ち会ったのは、翌一九四四年の春だった。

それは生身の人間へのペスト菌の使用実験で、同じく安達実験場の野外でおこなわれた。

呼吸器を通じての感染実験で、柱に縛りつけた約一〇名の俘虜たちから一〇メートルほどの間隔のところに、ペスト菌で汚染された液体の充滿した試験管をすえ、電流で管を破裂させた。

が、この実験は、被実験者を苦しめはしたが、感染には成功しな

かった。伝染病菌は呼吸器を通じて浸透しなかったのだ。

炭疽菌爆弾、女の臀に炸裂す

その日（裁判二日目の十二月二十六日）の午後の公判廷では、同じく被告のひとり西俊英が、スミルノフ検事の尋問に答えて、安達実験場における別の生体実験の状況を供述している。

西は、前記の柄沢より七歳年長で、軍歴も六年古い。鹿児島出身、一九四五年（昭和二十年）九月ソビエト軍の俘虜となったときは、軍医中佐、日本関東軍防疫給水部（第七三一部隊第三部）教育部長の要職にあった。

西が第七三一部隊長石井四郎中将の命令で、はじめて生体による実験に立ち会ったのは、一九四五年一月のある日のことだった。

実験の指導員である第二部長碓と二木研究員の案内で、西は安達駅におもむいた。

「実験は残酷なものかな？」

と車のなかで西はきいた。軍人の「威厳」を損ぜぬ、さりげない態度だった。

「いや、大したことはない」

碓も無感情な調子である。

「うーん、そうか……」

うなずきながら、西は救われたような気がした。実験場の野外には、十人の囚人が十本の柱と面と向かいあわせの形で堅く縛りつけられていた。

かれらの頭部は鉄カブトで、背部は綿ブトンでおおわれていた。

顔からからだの全部がおおいかくされ、ただ臀部だけ露出されている、奇妙な格好だった。どの臀も鳥肌だっているかにみえた。

女の臀ははっきりと識別できた。むっくりと豊かなその白さが、よけいになまなましく感じられた。

かれらから一〇〇メートルのところに、ガス壊疽菌充填の榴散爆弾がおかれ、スイッチがいれられると爆破した。

十人全部が露出部分に負傷した。血潮が臀を染めた。臀がしきりにもだえ苦しんで、それが見る者の——人間の嗜虐快感をいっそうそそりたてた。

囚人たちはふたたび特別自動車にぶちこまれ、部隊の監獄に運ばれた。

幾日かたって、西は碇第二部長に会ったとき、実験の結果について質問したところ、

「成功だった。十人の丸太全部がガス壊疽に感染されて、一週間後に苦悶死したよ」

と碇はあいかわらず無感動に答えた。「丸太」とは囚人をいう部隊内のことばだ。

(検事) 部隊の監獄に監禁されていた者のうち、自由の身となつて出てきた者がいるか？

(西) 私の知っているかぎりでは、だれも出てきませんでした。

(問い) では全部虐殺されたわけか？

(答え) まさにそのとおりであります。

(問い) 第七三一部隊では、伝染病感染の実験のほかに、凍傷実験が広範囲におこなわれていたというが、それについてあなた

はなにを知っているか？

(答え) 吉村研究員からきいたところを申しあげます。

生身の人間の手足を人工的に凍傷にかからせるというこの実験は、十一月、十二月、一月、二月の零下二十度といわれる酷寒の候におこなわれた。

部隊の監獄から、毎週二人—十六人の足枷をはめさせた囚人を、夜の十一時ごろ戸外に引きだした。

研究員はかれらを拳銃でおどしながら、まず裸手、裸足にさせて、しばらく寒気の中にやらしたのち、裸手(ときには片手、ときには同時に両手)裸足を特別の冷水をいれたオケにつけさせた。

次いで、ぬれたままの手足、を十分ないし二時間のあいだ、また寒気にさらさせる。さらす時間は、気温によって違った。

手足が完全に凍傷にかかったかどうかを檢べるために、研究員は小さな棒でかれらの手足をたたいた。

囚人たちはヒイヒイと悲鳴をあげる。が、小板をたたくような音が出るまで、たたきつづけた。

凍傷にかかったことが、明らかとなると、かれらも監獄内の研究室につれこみ、およそ五度の温水をいれた容器のうちに手足を入れさせ、じょじょに水温を上げた。凍傷の治療方法を研究するためだ。

実験の目的は、戦闘行動のさいにおける四肢の凍傷予防と治療法の研究だったが、実験にかけられた囚人たちは、いずれも手足の指が全く欠けおち、骨がみえた。あるものは、指はあるにはあったが、骨だけが残っていた。ほとんどが壊疽におかされ、幾人かが死んで

いった。

吉村はこのような無残な犠牲をふまえながら、研究を完成したのだが、そのことは、裁判三日目（十二月二十七日）の公判廷における梶塚隆二被告（元関東軍軍医部長、中将）の供述にもみえてい

（検事） 吉村研究員といえば、あなたは彼について何か思い起こさないか？

（梶塚） はい、思い起こします。

（問） 吉村が第七三一部隊で何に従事していたか、話してもらいたい。

（答） 第七三一部隊に吉村が研究員として勤務しているということを知るようになったのは、私がはじめて同部隊の査閲^{さえり}に行った一九四〇年三月でありました。部隊の実験室を視察した私は、そこで吉村研究員を知りました。

この実験室で、私は吉村が凍傷関係の研究をおこなっていることを知りました。彼は凍傷発生の原因に関する問題を研究していました。換言すれば、凍傷の病理学的研究に従事していたのであります。

その後、私はこの吉村の研究論文を見ましたが、この論文の論旨は、もっとも効果的な凍傷治療法が、凍傷にかかった手足を三七度の温水にひたすことだということです。

（問） 凍傷病理学の研究分野における吉村のこの業務は、あなたを長とする関東軍軍医部の権限に属し、関東軍の冬期作戦にあたってはまさに同部に



とって特別の意義を有するものだったのではないかと？

（答） はい、われわれにとっては、それは意義を有するものでありました。

検事も吉村の研究そのものだけは、認めるという調子の尋問であった。

脱走未遂の被実験者は消された

裁判は四日目を迎えた。

二十八日の午前で被告十二名の尋問がおわって、ついでこの事件に関係ある十数人の証人の尋問にうつっていた。

この日はさいしょに、証人堀田良一郎がマイクの前に立って、裁判長および国家検事の問いに答えていた。

堀田は若冠^{じやくかん}二十五歳、この年（一九四五年）八月、ソ連軍の俘虜となったときは、第七三一部隊海拉爾^{ハルビン}支部の経理課に勤務して、軍の位階は主計少尉であった。前年十一月に部隊に着任後、西教育部長から七日間の教習を受けている。

（検事） あなたは第七三一部隊経理課に勤務中、部隊倉庫の検閲をしたことがあるか？

（堀田） いかなる倉庫を考慮しておられるかを明確にしてい

きたいと思ひます。

（問） 安達駅付近の部隊特設実験場の倉庫である。

(答え) 正確な時日は記憶していませんが、それは一九四五年夏のことでありました。私は富塚主計とともに、経理検閲を行なうべき安達駅付近特設実験場におもむき、そこに現存した資材、物品、設備をすべて点検しました。

一つの倉庫を検閲したさい私は鉄製の防楯を発見しましてこれらの楯は何に用いられるのか富塚軍属にたずねましたところ、彼は、それらは経理給与品ではないが、倉庫に入っており、生きた人間を使用する実験に使用され、そのさい、被実験者の胸部および背部を負傷させないために着用させるのだと答えました。

それから富塚軍属は、フトンの束を私に示して、できればこれらのフトンを使用不能品として記入するよう依頼しました。こんなフトンは総数八〇点までありました。それらにはおびただしい血痕がみえ、ひどく破損していました。これはどうしてかという私の質問にたいし、彼はこれらのフトンも実験のさい、被実験者の上半身をまもる



ために使用されている旨述べました。
(問い) あなたはそれら実験用にされていた人びとが、実験を従順にたえしのんでいたのか、あるいは囚人が反抗した事例があるか、それらについて知っていることがあったら、述べてもらいたい。

(答え) 私はともに教育部で学んだ目黒軍医と、一つ部屋に生活していましたが、本年(一九四五年)夏のある日、目黒が自分の実験室に遊びにきてくれたと、私を招きました。

私は若干てまどりました、そこに行きましたところ、目黒はなにかに非常に興奮して、なんだかひどく腹をたてていました。私がなんでそんなに腹をたてているのかと彼に尋ねたところ、彼は監獄に収容されている者が反抗してきたと話しました。

その日の朝、目黒軍医は、ハルビンの特務機関から送致されてきた十数人の俘虜について、その健康状況を調べるために、部隊内の監獄におもむき、数人ずつ監房から呼びだして、調べ室で診察していた。

と、何人めかに目黒の前に立たされたひとりのロシア人兵士が、

かれの診察を拒否する態度をとった。

「バカッ！」

と目黒は叱責して、むりにその男を診察しようとした。

と、いきなり相手は大きなこぶしで目黒をつきとばすと、そのまま部屋を走りだした。

モロにひっくりかえった目黒が、起き上がったときには、そのロシア人といっしょに呼びだされた三、四人の囚人も、調べ室から姿を消していた。

目黒の知らせを待つまでもなく、逃げだしたロシア人その他の囚人は、すぐに監獄の衛兵に発見されて捕えられ、別の監房に監禁された。

「ふーん、めずらしく乱暴な丸太（囚人をいう陰語）もいるものだなあ」

目黒の話をきいて、堀田は半ば感心したような調子でいった。

「いや、あのデムチェンコという男は、『保護院』でも強情で札つきだったらしいんだ」

と堀田はいった。

「保護院」とは、特務機関のうちの「特別研究部」のことをいう別称である。

「どうだ、この機会に監獄をしてみるか」

そう目黒にすすめられて、堀田はかれに案内されて監獄の建物に行った。

この騒ぎの直後なので監獄の屋根の上には、武装したふたりの特殊班員が小銃を構えながら警戒していた。

監獄の入り口の扉のかたわらにも、同じく武装の四、五人が監視の

目を光らせていた。

が、獄内はすでにしずまりかえていた。

連鎖作用を呼ぶのか、このことがあって二、三日たってから、また、囚人の脱走未遂事件が起こった。

生体実験に使用するために、監房から呼びだそうとしたひとりの男が、とつぜんあばれだして、房の扉の把手で実験係をなぐりつけたのだ。

実験係がひるむすきに、その囚人は監房から廊下にとびだすと、カギを手にいれてきて、ほかの五つ六つの監房をも開いた。

房内から幾人かの者がとびだしてきて、廊下を走った。

が、厳重な監視の中で逃げおわせられるはずはなく、とびだした全部がすぐに捕えられた。

デムチェンコその他の脱走未遂者は、ひとりひとり射殺され、部隊裏の家畜墓地に埋められた。

こうした埋葬の状況について、証人のひとりである畑木明（二十歳、元部隊軍属、小銃手）が検事の問いに答えて、次のように述べている。

（答え） 私が実験室におりました時、そこに電話がかかってきました。

私はスコップをもって、家畜墓地に行くよう命ぜられました。そこに行きましたところ、道路から一〇〇メートルのところにひとりのロシア人が地に膝をついていました。そして水野憲兵は彼の後頭部を撃って殺しました。

家畜墓地にはあらかじめ穴が掘られてありまして、ロシア人

は、この穴のかたわらで銃殺されたのであります。

(問い) あなた自身も彼のからだを埋めたのか。

(答え) からだは穴に落ちこんでいましたので、私は土をかぶせました。

この脱走未遂事件の火ぶたをきったともいうべきデムチェンコは、前に収容されていた保護院の者にも印象を残していたらしく、証人として尋問された山岸健二(二十九歳、元保護院収容所長補佐、中尉)は、デムチェンコについて、――

殺戮のため第七三一部隊に送致した者全部の名まえは記憶していません。いままで記憶に残っていますのは、デムチェンコというソビエト軍の兵士で、彼はソビエト同盟に関するいかなる情報の提供をも、絶対に拒みました。

私の許可を得て、彼にたいして肉体制裁が加えられ、彼の取り調べを行なっていた者が、彼の手足を縛って梁に吊りさげ、拷問を加えたにもかかわらず、デムチェンコはなお供述しませんでした。そこで私は彼を処置することに決し、このため第七三一部隊に移送しました。

うんぬんと供述している。拷問に強かったため、印象を残したというのだ。そしてついに消された。

このほか、俘虜にたいしては、さまざまな拷問がおこなわれていた。この裁判の証拠品として押収された、陸軍特務機関の「俘虜尋問要領」の中の一節をのぞいてみよう。

第六十五条 拷問実施方法、たとえば左のごとし。

1、正座せしむ。

2、鉛筆を各指の間の根もとに近くはさみ、指先付近を糸、紐などをもって縛り、これを動揺せしむ。

3、仰臥せしめ(足をやや高くするを可とす)水を鼻と口と同時に滴下せしむ。

4、横臥せしめてクルブシを踏む。

5、身長に満たざる柵下などに立たしむ。

第六十六条 もし誤りて傷害を与えたるがごとき場合にありては、大局より考察し、邦家のため有利なるごとく、責任をもって断固処置すべきものとす。(中略)

第六十七条 拷問実施後は、拷問を受けたる者みずから、拷問を受けるは当然の処置なるを肯定せしめ、かつ、その名誉心、自尊心などにより、他に口外し得ざるごとく処置するを要す。また然らざる者は、誤りて傷害せし場合、早急に処置を要す。

第六十九条 拷問は関係者以外、ことに他の俘虜にこれを知らしむべからず。このため音声の漏洩せざるごとき処置を特に必要とす。

筆者は事実を羅列するだけで、少しも主観をまじえない。が、賢明なる読者はこれらの事実から、戦争というものが、平和と人類にたいする、いかに最大の凶悪な暴力であるかをくみとっていただけたらと思う。

(つづく)

(次回は「細菌兵器による大量虐殺の状況」)

小連
説載

悦虐の彷徨

③

享樂莊の情事

青山三枝吉

田上恵子・え



1

午前十一時ごろになると、きまって隣室の浪曲家が、歌謡曲の練習をはじめた。

低音で器用に歌うのだが、ときどき民謡めいたり、本職の浪花節になったりした。指導しているのが、南条マキという若いまだ二十歳まへの歌手である。レコードをまわしながら、節まわしのコツを教えている。

もっとも、マキにしたところで、まだ無名の、度胸だけで歌う歌手だった。

「あ、あ、あ、はじまったな」

「うるさいなあ、毎朝。もうすこし寝かせてくんないかなあ」

春風さくらと春風たんぽぽのふたりは、寝床の中で、あくびまじりの、いかにもねむそうな声をあげた。

もういい年齢なのに、浪曲家東家不二丸のレッスンは熱心だった。

「うまくならねえ。やっぱりお年齢かねえ、お隣の師匠」

「でも、いくらかは、きけるようになったよ。マキちゃんの教え方がうまいのかな」

さくらとたんぽぽは、しかたなく目をさます。だが、すぐには起きないで、しばらくはふとんの中でぐずぐずしている。

その間に、私はふたりのために朝食のしたくをする。それが私の任

務だった。

朝はトーストにミルク、それに何か肉類の缶詰でもあればよい。春風さくらと同じくたんぽぽは、女流漫才のコンビであり、私は彼女らの部屋の同居人だった。六畳と四畳半があって、私はその四畳半のほうに寝かせてもらっていた。

共楽荘という木造アパートの二階だった。東京もはずれの、千葉県に近い場末の町に、そのアパートはあった。

近所の人々は、芸人アパートと呼ぶ。

漫才、浪曲、落語、奇術、歌謡曲歌手とその楽団のメンバーなどが、玩具箱に詰めこまれた玩具のように雑多な色彩で、小さな木造建ての中に寝起きしていた。

いずれも三流どころ、あるいはそれ以下のクラスに属する芸人たちである。癡人に近いような老落語家もいれば、のど自慢に毛の生えた程度の若い男女の歌手も、四、五人で一室の共同生活を営んでいた。

このアパートの持ち主は、ここに住む芸人たちのマネージャーであった。大寺勝造という男である。

興行師の所有するアパートに、芸人たちが集団して居住しているのだから、万事につごうがいい。これは偶然にこう集まってしまったらしいのだが、私はこの現代的なシステムに感心した。

大寺勝造という人物は、つい四、五年前まで「親分」と呼ばれていて、その後も通称、大勝さんで通っていた。一見して苦勞人だということがわかる味のある風貌で、ときおり瞳の奥に凄みの走るのが、い

「痛い、痛いよう、あ」——引かれた縄もろとも、背後の両手首が肩の近くまで、じりじりと吊りあがる……

■前号までのあらすじ

私（松平）は、大学を出てもサラリーマンになることが嫌だった。といって、芸術を志すほどの才能もない。そして偶然目にふれた三行広告を見て、花村駒代一座という、旅まわりの女剣劇の一座にはいった。だが、旅まわりの一座には、座付作者とか文芸部とかはなく、レコードをかけたたり、ゼラチン紙の照明を扱ったり、荷物を梱包したりする、裏方の雑役係として雇われたのだった。

花村駒代一座は、座員の総勢十六名、そんなに小さな組織ではない。座長の駒代は二十六、七に見えるが、三十を一つ二つ越しているかも知れない。芸達者で苦勞人であった。

娘形の花村あやめは、駒代の実の妹だが、私は、あやめの身内にマゾヒズムがひそんで、舞台でも縛られる役を

やるときなど、もっと強く縛ってくれとせがむくらいだ。

秋田県のある小都市で興行をうったとき、駒代が興行師によばれて一夜明けたとき、あやめは、ある旅館へ私を誘った。そして、用意してきた縄を取り出して縛ってくれと言いつつ、緊縛の中であやめは、陶酔し、愉悅して、私と結ばれた。

やがて、阪東紅也という十七歳の少年が新しく入座した。座長の駒代の旧友の息子だといふことだが、踊りがうまかった。

ある日、私は、芝居がはねて旅館へ帰って、そこへ、駒代が紅也を責めている姿を見てしまった。私のうしろにあやめもいた。

それが刺激となって、私は、紅也を連れ出し、女装の彼を縛りあげ、鞭でさいなんだ。あとをつけてきたあやめが、その場に飛び出して、嫉妬の刃を私の顔にふるった。

に預けられた。

預けられたというのは、じつは大げさで、べつに面倒な制約はなにもなかった。駒代が保証人になってくれて、私が大勝のアパートに入居した、というだけのことである。

はじめ、私は階下のうす暗い四畳半の一座にいた。が、十日ほどたつと、ふいに異変がおこった。

三カ月もの長い旅まわりに出ていた大勝興行部傘下の芸人たちが、そろそろ帰ってきたのだ。どういう事情かよく知らないが、出発前より芸人の人数が増えていて、その増えた芸人に、私の部屋が占領されてしまった。

それから、やや複雑ななりゆきがあった末に、私は二階南側の春風さくら、たんぼぼと同居するハメとなった。だが、それはけっして悪い結果ではなかった。

なりゆきというのは、ひと言でいえば、私はこのコンビの姉貴分であるたんぼぼに惚れられて、彼女に飼われる身分となったのだ。

私は文なしの無職者だったし、飯を食わせてくれるだけでもありがたかった。考えてみれば、これもアブノーマルな話である。襖で仕切られているとはいえ、同じ部屋に男ひとりと女ふたりが寝起きしたのだ。

このころの私は、自暴自棄の泥沼の中にはまりこんでいた。どこまで墮ちるか、という自虐な期待さえあった。

2

隣室の浪曲家東家不二丸が、サド趣味の人物であることを、私はま

かにも親分らしかった。

私が芸人アパートなんかに住むようになった次第は、旅まわりの女剣劇一座の座長、花村駒代の口ききによる。

新聞記事ふうにいえば「ゆがんだ痴情のもつれ」から刃傷沙汰（と）いうほどのこともないが、までひき起こしたあやめと私とを、離間させるためだった。

東北の温泉宿の離れで、あやめが私に負わせた剃刀の傷は、たいしたことはなかった。血を見た私が臆病にも大声あげて逃げまわったので、騒ぎだけは大きかったが、べつに警察沙汰になるほどのことはなかった。

しかし、私としても面目なくて、もう駒代一座にはいられなかった。ほとぼりのさめるまで、と駒代にいわれ、彼女の世話で私は大勝

もなく知らされた。

なにしろ戦後すぐに建てられた木造アパートなので、境の壁もベニヤ板なのである。そのベニヤ板の上に、めいめいがデパートの包装紙だの口絵だのをべたべた張り重ねて厚みをだし、いくらかの防音装置をしたつもりでいた。むろん、気やすめにしかならない。

だから隣室の話し声、物音、立ち居のけはいなどは、いやでもよくきこえる。

夜、晩酌をたしなみつつ、不二丸は女房を縛るのだ。

浪曲師の女房だから三味線ひき、気どっていえば「曲師」で、文字どおりの夫婦共働きである。

不二丸は四十年配でやせぎすな男、女房は三十五、六になっている。そうだが、芸人らしくあかぬけていて、三十そこそこにしにかみえない。ぽってりと成熟した、いかにも玄人じみた女である。いつも着物を着ていたが、腰のへんのまるみから色気がしたたるようなからだつきをしていた。

この女房が夜になると、

「ひい、ひい」

と、世にもなまめかしい悲鳴をあげるのだった。亭主に縛られ、責められるのだ。

悲鳴とはいふものの、不穏な気配や陰惨な感じはみじんもない。あきらかに愉悅の声音だった。

「はじまったよ」

「たまらないわあ」

と、壁一重こちらの女漫才ふたりは顔を見合わせ、肩をすくめる。「こいつめ、そら、どうだ、うん、うん」

と、男のいきばった声。

「あ、あ、痛い、痛いわ、あんた。もうすこしゆるめてよウ」

と、あえぎつつ鼻にかかった女のあまったるい声。

なるほど、たまらない。刺激的だった。隣室のこの気配を、はじめてきいた夜、私はびっくりして、さくらとたんぽぽに、

「なんだい、あれ？」

と、きいたものだ。

さくらはニヤニヤと笑い、

「お隣の師匠がね、おくさんを縛ってんのよ」

と、教えてくれた。

「べつに夫婦喧嘩でもいじめているのでもないのよ。つまり変態っていうのかしら。あれで夫婦とも楽しんじゃっているんだから、変わってるわよ」

と、たんぽぽは若いだけに、笑いもせず不快そうに唇をまげてみせた。だが、好奇心はやはり瞳の色にチラチラあらわれている。

私は、ショックだった。なぜか自分の秘密をむきだしにされたような錯覚をおぼえ、うろたえた。

が、すぐに思いもよらぬ身近な場所で、自分と同じ病氣(?)をもつ人間を発見した感動に、カッと顔がほてり、胸が苦しいほど高鳴った。

私は、声やけはいだけでなく、不二丸夫婦のその遊戯を、実際にこの目で確かめてみたいという欲望に駆られた。

その反道徳な計画を、私はわざと気軽な、いたずらっぽい顔をつくらせて、さくらとたんぽぽにうちあげた。壁に穴をあけて盗み見しよう



という提案だった。

ふたりの女はためらいをみせたが、私の熱心な扇動と説得に、やがて賛成の意を表した。

彼女らとて、声だけきいて不完全な想像をしているよりも、一度はその実態をのぞいてみたいという欲望と意志があるのにきまっている。

昼間のうちに、さくらがなにげなく隣室を訪問し、十五分ばかりくだらないことをしゃべり、それとなく穴をあける位置を計ってきた。穴をあけるのは、不二丸夫婦にさとられない位置でないとまずいからだ。

それからの仕事はかんたんだった。なにしろベニヤの壁である。隣の夫婦が部屋をあけたわずかな時間に、あっさり完成した。

3

他人の男女の夜を、こっそりのぞき見しようとする行為が、すでに窃視症であろう。

しかも計画的だから罪もふかい。

その窃視の対象がまた、アブノーマルな縛りごっこなのだから、異常行為のダブルプレイだった。

のぞき見た不二丸夫婦の、その

遊戯のあぶらっこさに、私はどぎもをぬかれた。

豊満な肉体の両腕が、白い木綿の縄で高手小手の形に縛りあげられ、むっちりと思っていた。下半身に縮緬らしい真紅の腰巻きをまとわせているのは、不二丸の好みとみえた。

女は畳の上に横たわり、巨大な虫のように身もだえていた。白くむきでた上半身と、ぴっちり腰をおおった緋縮緬が、鮮烈な色彩の対照だった。

不二丸は部屋の片すみの小さな膳の前にあぐらをかいてすわり、酒を飲んでいる。縛りあげた女房の半裸の姿態が酒の肴らしい。目をほそめて、じつにうまそうにチビチビやっている。

ふたりの間は、せまい室内なのに二メートルほど離れていて、わざと距離をおいてながめ、このふんい気をじっくり味わっているポーズだった。

「どうだ、おせい、縄のぐあいはい……」

と、不二丸が声をかける。おせいというのが女房の名まえらしい。

「う、う、う、あんたア……」

女の返事はことばにならず、うっとりした吐息だけだった。顔がむこうをむいているので、壁の穴からは彼女の表情がわからない。

私の視界には、背中にねじあげられた左右の手首、そこにがっちりとかいこんでいる縄目がクローズアップされていた。肩から二の腕にかけての、いかにも中年の女らしいやわらかそうな筋肉が、縄にくびれて盛りあがっていた。きつい縛り方である。

「あんたア、あたしにも飲ませてよう」

女房があまったるい声をあげた。緋縮緬に包まれた尻をくねくねとうごかす。

すると不二丸は、

「よし、よし」

と、杯に酒をつぎ、腕をのばしてその酒を女房の口へ運んでやるのだった。妖しいなかにも、妙になごやかな光景である。

「ああん、こぼれちゃうわ」

と、女はまた鼻を鳴らす。

「よし、起こしてやろう」

不二丸は、自由のない女房のからだを片腕で抱き起こし、その唇に杯を寄せた。女は、チュウツと舌を鳴らして飲みほし、

「おいしい」

といって男の胸のなかに顔を伏せる。

すると不二丸は、片手で女の縄尻を短くつかみ、ぐいとひき起こす。

「あ、痛い」

まろくなっている女の背が、縄にひかれてのびあがるのだ。縄もろとも背後の両手首が、肩の近くまでじりじりと吊りあがる。

「痛い、痛いわよう、あ、あ、あ」

痛いといいながらも、声の色はけっして不快を訴えるものではなく、その逆だった。

「そら、どうだ、そら、どうだ」

口でなぶりながら、不二丸はなおも女の両腕を責めあげる。責めすなわち愛撫なのだった。

女は尻を浮かせ、立て膝になり、のびあがって咽喉でうめく。苦痛のなかにひそむ悪魔的な恍惚感。しかし、このあたりはまだ遊戯の前哨戦なのだ。

やがて、本番がはじまったのだ。

4

それは絢爛たる三十分間だった。

肉弾相うち、のぞき見の犯人たちが思わず口をおさえ、目を閉じ、また目をみはるような、すさまじいテクニクを駆使していた。

これでは隣室はおろか、アパートじゅうを震撼させるのも無理はない、と私は思った。

「すごいわねえ、ちょっと」

感にたえたようにさくらがうなった。

「なんだかキモチ悪いわ。ぞくぞくするわ」

たんぽぽも、熱にうかされたような声をあげた。

すごいとかキモチ悪いとかいいながら、ふたりとも頬を桃色に上気させ、手に汗を握って小さな壁の穴の奪いあいなのだった。三人の男女が、へっぴり腰になって隣室を盗み見しているところを、また第三者が目撃したら、ずいぶん奇妙な光景に映ったことだろう。

さくらやたんぽぽよりも、数倍の好奇を凝集させ、私の目は穴のむこうの被虐体に吸着し、離れなかった。

私が過去、花村あやめに対して、また阪東紅也に対して行なった嗜虐の行為は、この中年の浪曲師夫妻にくらべたら、児戯のようなものだった。

第一に、その心がけにおいて、格段の差があった。私は自分の異常を忌まわしい性癖として恐れ、罪の意識さえ抱きながら、極秘のうちにその愉悦にふけた。

しかるに不二丸夫婦は、バラックに近いような木造建て二階の一室で、周囲にひびくのも頓着せず、堂々とおのれの性を楽しんでいるのだ。

中年のずうずうしさというのか、ドサ回り芸人の海千山千的な根性からくる厚顔無恥なのだろうか。それとも夫婦が自分たちの部屋で愛を楽しむのに、なんのうしろめたさをもつ必要があろうか、というりっぱな精神のあらわれか。

どっちにしても、私には一驚だった。私は眩惑され、頭がクラクラした。私の脳裏は、いつかあやめの姿態を強くよみがえらせた。せつなく、やるせなく、私はあやめを恋うた。

「どうしたのよ、松ちゃん、ぼんやりして」

たんぽぽが私の肩をたたいた。

「だれだってぼんやりするわよ、あんなものすごいやつを見たら」さくらが笑っていった。

「あんなにぎゅうぎゅう縛られて、足なんか折りまげられて痛くないのかしらねえ」

ため息のように、たんぽぽがいった。それは無邪気な疑問だった。「痛くないことはないでしょうよ。あんな窮屈な格好させられるんだもの」

「ためしに自分も縛られてみたらどうだい」

といったのは私だった。もちろん、冗談めかしていったのだ。「いやあだ」

たんぽぽは首をすくめた。その動作は、ふと愛らしかった。私はこの女を縛ってみたい衝動を感じた。

しかし、私のスポンサーは、さくらであった。私は彼女に雇われて

いる身分だった。私は、さくらには縛りたいなどという欲望は起きない。

彼女は私より七つも八つも年上だったし、りっぱな体格で、いわゆる大女の部類に属する。大きなさくらと、小柄なたんぽぽの対照のおかしみで売るコンビなのだ。

そのうえ、自分の欲望を処理するために、男を飼うほどの姐御肌だから、むしろサドッ気^けのほうが強そうだった。いや、ご当人にその意識はなくとも、やはり一種のサドにはちがいない。

なぜなら、さくらは襖一枚^{ふすま}へだてた六畳にたんぽぽを置いたまま、すぐ隣の四畳半で私といっしょに寝る時がある。わざと大仰^{おおぎやう}な声をあげたりして。

サディズムよりも、そうなると露出症だろうか。

共楽荘というよりも、享楽荘^{きやうらくそう}とよぶべきかも知れない。ドサ回りの芸人たちの休暇は、あきれるほど自由で奔放だったのだ。

平板な道徳観念からいえば、自堕落^{じだらく}で退廃的ともいえよう。思えば、やはり特殊な社会であった。そして私は、このただれたような情痴のあけくれに、ずるずるとそまっていた。

こうしてはいられない、こんな腐敗した環境から脱出しなければいけない、という反省とあせりが、特に鋭く心を刺したが、一方この甘い生活にぞんぶんにおぼれてしまえ、という誘惑も、私は拒絶しきれなかった。

5

そのうちに、隣室で遊戯ではない一騒動がもちあがった。

私は、ひまにまかせてれいの壁の穴から、その一部始終^{いちぶしじう}をのぞきとおした。

不二丸師匠が歌謡曲を習っているのは、自分の節^{ふし}に現代的なリズムとセンスを加えようとしての努力のあらわれだったらしい。その芸熱心は尊いものだったが、コーチの南条マキと、いつのまにかできてしまったのだ。流行歌のレッスンがとりもつ縁だった。

四十を過ぎた浪曲家と、まだ十七かそこらの将来を夢みる少女歌手との、やや意表をついた愛欲とみえた。

このマキというのが、また大変なしろものだった。近いうちにパッと売りだして、第一線の流行歌手におどりであることを確信していた。そのためにはどんな代償でも払い、どんな経験でも積んでおこうという果敢なズベ公であった。

「ねえ、師匠、あたしにも縛られる味っていうの、教えてよ」ズバリといったものだ。

これには不二丸もギクリとしたらしい。

「なんだい、マキちゃん、おれのそんな道楽を知ってんのかい。いやだねえ」

などとてれている。

このとき、彼の女房のおせいは使いに出ていて留守だった。

「知ってるわよ。だって、アパートじゅうの評判だもの」

臆面^{おくめん}もなく、マキはいった。そして、スカートの裾^{すそ}をまくって膝から上をポリポリとかき、露骨な挑発^{ちょうはつ}をみせた。

年齢以上に成熟した肉であることは、服を着ていてもじゅうぶんにわかる。臀部や腿^{もも}のあたりは、ぷりぷりとはちきれそうで、人間の女というよりは動物的な肉感があった。

不二丸はあっさりとその誘惑にのって、

「それじゃ、あすの夜にでもおいでよ。おせいのやつは、うまく言って、一晚実家のほうへ使いにだすから」

などと、早くもマキの肩のへんをなでさすっている。

交渉はあっというまに成立して、そのすばやさに私は再度おどろいた。花村駒代一座とて芸人の集団だが、おのずから組織としての規律があった。節度もプライドもあって、こう簡単にはいかない。

私は、マキにはマゾヒズムの気なんかはないとにらんでいた。いくら特殊な社会だからといって、そんなにマゾの女が存在するはずもない。マキには卑猥な好奇心があるだけなのだ。中年の男女がひいひい騒ぐ情痴の秘密に対して、あこがれめいたものでも抱いたのか。

そのマキが、縛られてどんな反応を示すだろうか。そこに興味と期待があった。

6

縄は見覚えのある、いつも女房を縛るときの白っぽい木綿のものだった。

その縄で、不二丸は器用な手つきで、マキをうしろ手に縛りあげた。なれているとはいえ、まったく見事な速度であった。熟練した職人の手腕を想像させた。

背後にまわさせたマキの両手首を、ひょいと左手でひとつかみにして右手の縄を巻きつける。力をこめてきりきりッとしぼると、もうマキは自由を奪われていた。

マキはスリッパ一枚になっていた。不二丸の注文である。

「はい、そのこと、ぜんぶ裸になっちゃえよ。汗をかくぜ」

などと不二丸はしきりに脱がせようとしたが、マキもそこまでは露出しなかった。しかし、スリッパの裾は短いし、胸も乳房のふくらみの半分は、いやおうなしにむきだされている。

その若々しい素肌^{すき}のみえかくれは、全裸よりもかえって男ごころをそそり、むずむずさせる。いかにも健康そうに、肌はうす桃色に光っていた。

男の力で手加減もなく肌に縄を噛^かまれたマキは、まっかな唇^{くちびる}を金魚のようにひらき、

「痛いわ、痛いわ」

と、すぐに悲鳴をあげた。自由を失って、さすがに不安をおぼえた顔色になった。こんな経験はおそらくはじめてだろう。

「そこをがまんするのさ。はじめは誰でも痛い。痛くともだんだんによくなる」

不二丸はニタニタ笑いながらいった。

手首と腕と胸をぎっしりと縛りあげ、縄を余して両足首もそろえて縛りつけた。

「足も縛るの？」

マキは不服そうな声をあげた。

「ああ」

不二丸はことばすくなになっていた。

彼が次第に興奮し、夢中になってきているのが、のぞき見の私にもよくわかった。私の興奮とて、彼に劣らなかった。私の目は小さな壁穴をおして、マキの半裸身に粘^{ねば}りついていていた。血走っていたにちがいない。縄にくびれあがった肉体の、うす赤みを帯びた美しさに私は我

を忘れた。

「いやよ。もう痛いわ。やめてよ。

ほどいてよ」

マキは左右の肩をふって怒ったように訴えた。声が真剣になっている。やはりこの女には、被虐を感受しうる素質などなかったのである。それが当然でもあった。

不二丸は無言だった。容赦なく縛り終えたマキを凝視していた。のぞき穴からは不二丸の表情は見えなかったが、おそらくギラギラ燃える目で、マキのからだをなめまわしているのだろう。彼の沈黙は、彼の恍惚状態を示していた。あるいは、つぎの破壊的な衝動を耐えるための無言かも知れなかった。

「やめてよ、苦しいだけだわ。もうあたし、いやよ、こんなこと」

マキはもがき、泣き声になった。

不二丸は押し入れの戸をあけ、なにやら紐を一本取りだした。女房の腰紐かなんかなのだらう。赤い色の布紐だった。

「もう、やめてえッ」

マキは恐怖の混じった高い声をあげた。

「だんだんよくなるんだ。もうすこしの辛抱しんぼう」



なんだよ。静かにしていな」

不二丸はマキの耳もとに口を寄せ、なめるように低くいった。そして、手にした布紐で、こんどは彼女の両足の膝を縛り合わせ、その延長を首のうしろへまわして縛ると、力を入れてひき締めた。すると、マキのからだは海老責めに似た形になって、畳の上に横倒しにくずれた。

「ああ、痛いわようッ」

マキは鋭い悲鳴を發した。裸の肩が畳にこすれる。

「静かにしろっていうのに。声をだすなら猿ぐつわだ」

あわてもせず、不二丸は手ぬぐいをつかんでマキの口を縛った。首をふって抵抗したが及ばなかった。マキの悲鳴は口のなかでこもった。声もだせない、身動きもならない、みじめな白いけにえとなつた。

この海老責めの形では、なにもせずとも緊縛度はじわじわと増し、肉体のすみずみを責めつけてくるのだ。とくに急所の乳房が苛酷な縄目に虐げられて、せつない呼吸のうごめきをみせている。

不二丸はスリッパの裾をまくりあげた。マキのパンティーはうすいブルウの色をしていた。

そのブルウのナイロンに包まれた、まるい巨大な肉塊を、不二丸は平手でびしゃびしゃたたきはじめた。

「どうだ、マキ。子供のくせに、縛りたいなんて生意気をいうから、こういう目にあうんだぞ」

マキの尻は、びしゃびしゃと叩かれつづけた。

「おまえなんか、まだこの味を覚えるのは早すぎるんだ。いまはいっしょうけんめい芸の修業だけしてればいいんだ。どうだ、痛いだろ

う

説教めいたことをいながら、びしゃびしゃと叩く。

すばらしい音の連続に、私は陶醉した。官能的な嗜虐的なひびきである。

マキははげしくその尻をゆすつてのがれようとしたが、駄目だった。海老縛りの残酷さは、もがくだけ自分が

苦しくなる。口の猿ぐつわも堅く、いくら救いを呼ぼうとしても、ムムウという声が漏れるだけだった。

しまいには、ただ叩かれるにまかす被虐の格好になった。そして、のぞき見の私も、壁にかじりつくようにして絶頂に達した。私はたまりかねて濡らし、ぐったりした。

7

騒動というのは、それから数分後に開始されたのだった。

不二丸の女房が、ふいに帰ってきたのだ。

亭主にいきなり命令されて実家へ使いに出されたが、怪しいと思つて途中で引き返してきたらしい。そのへんの推理力は、さすがに芸人

元東京中野病院外科部長 上谷文一著

慢性淋疾短期根治

★新薬盲信の害即ち慢性淋疾の本態尿道側管淋の病理を明らかにし側管壁に生成される防壁の為薬剤は菌に到達不能となり根治至難再発する理由★現行全療法の慢性淋根治至難の理由★難治淋を一回淋糸消滅十日以内絶対根治の合理的無痛無害直接殺菌の一方法説明す★全国根治患者礼状集

価送料共百円

発行 東京都中野区宮園通り四の五

上谷外科医院

発売 東京都中野駅前20番地(南口大通百米左側)

宮園書店

の女房らしい。

部屋の戸をあけ、ひと目みて彼女は逆上した。若い女が肌もあらわに縛られ、尻をまくられて叩かれているのだ。

よく見ると、若い女はマキである。

「マキちゃん、あんたって子は！」

とさけぶなり、無抵抗のマキに、猛然とつかみかかっていた。こういう場合、普通は亭主のほうへ突っかかっていくものだが、女にまづむしゃぶりついたのは、どういうわけだろう。

不二丸はあわててそれを制す。

だが、女房は半狂乱の様相で、とてもおさえきれない。すごい嫉妬である。

そこで不二丸は、こんどは遊びではなく、実用として女房の両手を縛りあげた。

「くやしいッ！」

と泣きわめいて女房はひっくりかえり、両足をバタバタさせて、なおも暴れたが、その隙にようやくマキは解放されたのであった。

騒ぎがあまりにもはげしいので、一時はアパートじゅうの住人が不二丸の部屋の前に集まって見物した。

誰もとめようとする者はなく、おもしろがってワイワイはやしなから眺めている。

「ちくしょう、見せ物じゃないよ！」

と、縄を解かれたマキが、自分で猿ぐつわをかなぐりすてて、野次馬にどなったのであった。

それから十日後、共楽荘はまた静けさをとりもどした。

春風さくらもたんぽぽも、浪曲家夫婦も、南条マキとその楽団も、

ひと休みを終えて、みんな再び旅に出てしまったのである。

農村や地方の町で夏祭りが行なわれる季節なので、その余興の演芸に買われていったのだ。

余興に使用する舞台は、よくて小学校の講堂、野天の粗雑な屋台が多い。

しかし、芸人たちは涙ぐましいほど熱演する。

彼らのスケジュールは大勝興行部の手で、じつにうまく組まれてあって、各地の祭礼から祭礼へ、一日の無駄もなく興行できる日程になっている。

祭りだけで、二カ月はたっぷり稼げるのだった。

私はしかし、雇い主を失った。

二カ月たてば、女漫才師はまた共楽荘に帰ってきて、私を「若いツバメ」にして飼ってくれた。

さくらはそう約束してくれた。

「待ってるんだよ」

と、念を押した。

しかし、まもなく私は共楽荘を出た。

花村駒代一座に復帰する気持ちも、すでに失っていた。あの人情厚い女座長を、再び裏切れることは苦しかったが、私は決意をしていた。

彼らの自由な人間性あふれた生活を愛していたが、私の心の底にはやはりわびしい風が吹いていた。

墮ちるところまで墮ちろ、などといったばし退廃ぶった自棄のくらしの中にも、私の若さは一片の理性をどうしても捨てることができなかったのである。

読者サロン



あたしはサド女性

五月号楽しく拝見しました。
その所感をちよっと――

獅々村さんの「鞭よ！愛しておくれ」は前半ひじょうに実感があって良いと思いましたが、女社長が最後までサド女性であったなら、もっとすばらしかったと、残念に思います。つぎにグラビアの「ムチ打つ女」の高月まゆみさんは、過去にみられなかったすばらしいスタイルのサドぶりで、同好の私を喜ばせてくれました。これから、もっと高月さんのサド姿を掲載してくださいますようお願いいたします。

わたくしは21歳のサド趣味の女性ですが、熱心な奴隷志願の中年の男性のかたがたのおたよ

編集部から愛読者各位へ

最近、読者各位から「だれだれを紹介してほしい」「これこれのグループを教えてください」という依頼が非常にふえてまいりました。しかし、当社としてはこの種のご希望には応じかねますからこの「読者」を希望します。

(練馬区 木村洋子)

入れ墨に魅入られた私

「風奇」の愛読者のひとりですが、いっそうの充実、向上を望むため、次の提案を実現されま

すようお願いいたします。
①男性の縛り、責め、禪姿、などの写真のぞむ声が、非常に多いようですから、毎号女性のそれと、半々ぐらいまでスペー

スをとってください。
②わたくしは筋肉質の若い男性の入れ墨を見ると、このうえなく心のときめきを感じます。臨時増刊号には入れ墨の記事、写真がありました。写真は全部女性でもの足りませんでした。次号には、ぜひ、若くたくましい男性の入れ墨写真を満喫させてください。

者サロン」を通じて文通されるようお願いいたします。
したがって、個人的な文通を希望されるかたは、住所・氏名を明記して呼びかけるようにしてください。
ただし、当社では文通後の責任はいっさい負いませんから、念のため――(編集部)

次に少々わたくし自身のことを書きます。

わたくしは戦時中軍隊にまいりまして、班長に可愛がられました。

班長はとても男性的で、魅力のある人でした。しかもある機会に入れ墨のあることを知り、いっそう思慕の情がつのりました。

復員後、文通を楽しみにしていましたが、二年目にパツタリ

手紙がとだえ、目先が暗くなるような悲しみを味わいました。何分にも、九州と横浜では尋ねて行くことも思うにまかせず、さびしい日が続きました。

ある日、ふと自分の腕にペンでいたずら書きをした時に、それをまざまざと思ひだし、その夜、家人の寝しずまるのを待って自分の内股に束ねた針に墨をふくませてつきたてました。そのものすごい痛さに始めはとまどいましたが、そのうち快感に酔いしれるようになりました。

現在は34才で、父からの商売を続けていますが、まだ独身で妻帯する気持ちのないところから、身内としてはたったひとりの母がなげいております。

しかし、結婚しても、妻とは名ばかりのものになるような気がして、どうしても気が進みません。

と云って将来を考えますと、このままで良いとは思えませんが、母がもし、わたくしのからだ、性癖を知ったら……と思います。暗い気持ちを抱かずにはいられません。

そこでついまた、その気持ち

そぶようになるのですが、どんなか良い解決法をお教えくださいませんかでしょうか。

(横浜市 T・M生)

禪マニアの希望

児玉氏という絶好の禪モデルの出現によって男性緊縛の「禪もの」が精彩を放ってきたことは本年度の大収穫でした。しかし、五月、六月号にはその魅力的な禪姿が見あたらず、非常に残念に思います。

壮年の充実した肉体条件に加え、みごとに禪の締めぶりは、「風奇」にとって貴重な存在だと思いますから、今後は万難を排して、児玉氏の起用をはかり毎号の「禪もの」の充実を考えてください。

なお、撮影にあたっては、キリキリと肉体を緊縛したたくましさにあるわけですから、何よりもその締めぶりを重視してください。ヘソ下三寸ぐらい下、低目に、前袋も広からずピッチリ細目に締めあげたのが一番男らしい禪ぶりといえましょう。男の官能につかれ、禪にほれた第三の性の甘美なあやしい世界を、児玉氏によっていろいろ

と追求して見せてください。

(名古屋 白禪亭)

モデルになりたい

始めてお便りします。「風奇」を読み始めたのは四月からですが、男性緊縛については写真を見ただけで興奮するほどのファンです。

小生も女性には興味を感じませんが、男性の禪一本の姿を見ると、もうどうにもがまんできません。その人といっしょに生活して見たいと言う気持ちさえ起きてくるのです。

小生の年齢は二十八歳です。もしモデルにでもしてみたいというかたがありましたら、ご一報くだされば喜んで参ります。

(中野区 青木 正)

禪は前だれをつけて

次第に誌上で同好の士が発言を増してきていることは、実に楽しいことです。

先号では「そり責め」が特に印象的でした。小生は別府昭彦君が大好きでしたが、最近はどうして出てこないのでしょうか。

それから「風奇」の男性写真はほとんど六尺ですが、前だれ

のある方がいっそう魅力がでると思います。たまにはぜひ越中禪などもつかってください。

わたくしはチャンバラ映画などで、浪人が捕われるまでの奮闘中に、ときどき前だれがひるがえって、前のはだける姿に、たまらない魅力を感じるのです。なお、モデルさんにはたいへんだと思いますが、さかさ吊りやX型しほり責めなどを、越中禪でぜひ実現してください。

(裸禪族)

すっ裸の勢ぞろい

熱烈な六尺マニヤの男一びきです。六月号は近來にない充実ぶりで大感激でした。

芦立氏の「炎帝廟」などは一回目よりも大胆になり、急所の責めもいろいろとあり、思わずコーフンしてまいります。

読者サロンの禪党の諸兄、わたしも愛禪会の結成の一日も早からんことを祈っているひとりです。そうして、六尺禪一本のすっ裸での勢ぞろいを夢みます。

(東京 A・F生)

男責めは奇数ページから

「風奇」の写真を楽しみにして

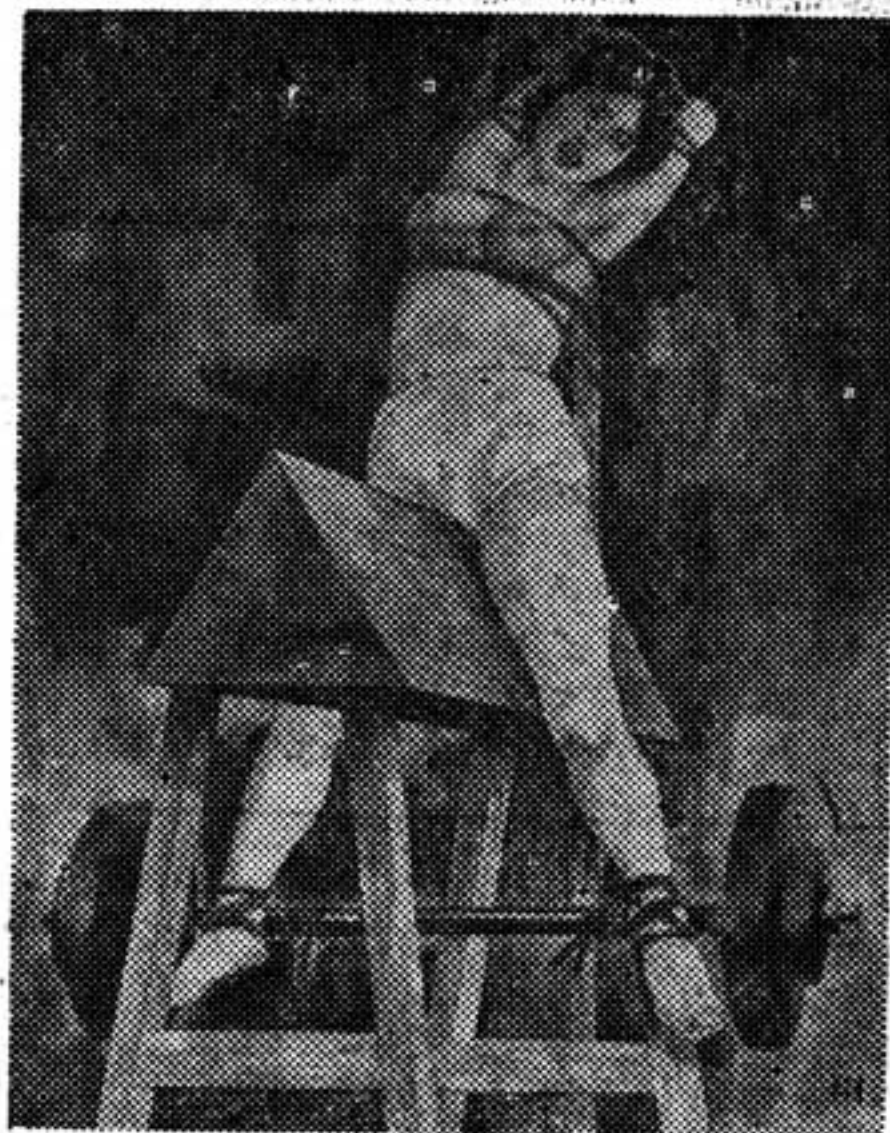
おりますが、毎号わたくしどもの希望をいれた、思いきった企画にたいし、あつく感謝しております。

「風奇」によって、わたくしどもの抑圧された欲望のはけ口がいかにも明るなものとなっているか計りしれません。おかげで、わたくしも明朗な気分でご各号の発刊日を持つことができます。そこで、これ以上の希望という、少々あつかましいとは思いますが、なんとかお願いいたします。

たれしも同じではないかと思いますが、自分の性向にあった写真や記事は一ページでも貴重ですが、そのほかは保存上、むしろじゃまになります。わたしは「風奇」を購入すると、すぐに解体して必要なページだけ集めておりますので、男性責め写真や記事は必ず奇数ページから始まって、偶数ページで終るように編集していただきたいと思っております。

禪姿の写真は局部の隆起がはっきりでるよう、光線の加減に留意していただきたいと思っております。

五月号のそり責めなど、三角



三角木馬と葉巻き責め

八木暮元一郎V



テーマにしたグラ
ビア、分譲写真を
作ってください。

(馬化ファン)

あたしは処女

わたくしのつた
ない文章をお読み
になったかたがた
は、絹子のことを
すごい女だと思っ
ていらっしゃるこ
とでしょうが、わ
たくしは浣腸プレ
イをするこそして
も、肉体的には完
全な処女であるこ
とを、胸をはって
いえまします。だ
から浣腸プレイは
どのようなこと
でもいたしますが、
かりに異性
とプレイをしても
肉体的交渉は
絶対いたしません。

わたしの告白の後日談ですが
信二さんは増刊号の発売される
三日前にオートバイに乗って
るときに交通事故でなくなっ
てしまいました。わたくしにと
って絶好のプレイ相手だったの
に悲しくてたまりません。わたく
しはかれのことを思い、しばらく
プレイを中断しようかと思

ますが、ひとりしていると、また
気持ちさがらついてきます。わ
たくしはどうしたらよいでしょ
うか？

(夏川絹子)

女の禪姿は最高

六月号を拝見、ますます躍進
をつづける「風奇」の様子をみ
て、われわれマニヤは全く心づ
よい限りです。

読者サロンの中で女禪狂様の
「女の禪姿は最高」の一文を見
て、わたくしはわが意を得たり
とばかり喜んでおります。

わたくしも同じような趣味を
もっていますので、同好の士が
出てこられたのは心づよく思
います。

禪一本の裸女が命を的の相争
そう無残絵模様も私のようなマ
ニアにとってすばらしい対象の
一つです。

白刃をふるって切り合う禪
女、朱に染まっておれる禪女
など、変わった無残絵を「風
奇」の手で開拓してください。

(阿部真仁雄)

禪に生きる男

六尺禪一本のからだにふれる

馬上の女王さま万歳

五月号の倉仁氏の「乗馬マニ
ヤア九人の女」拝見いたしました
。実際に僕が思っていること

部が白いのみでは、せっかくの
興味が半減されます。えび責め
など今まで他誌に見られないす
ばらしいものですが、局部が全
くかくれていて残念でした。
以上かってなお願ひですが、
どうかわたくしどもの希望が少
しでも入れられますよう、せつ
にお願いいたします。(T・I生)

と同じようなのには、すっかり
うれしくなっていました。
ぼくのイメージは、倉仁さんの
えび責めとピッタリなのです。
できればもう二三枚多く描いて
欲しいかと思っています。
馬上の女王様が縛られた男奴
隷を鞭打っているのがありまし
たが、すばらしいですね！実
際にあのような写真が撮影でき
たら、と思います。

これから季節もよくなり、野
外撮影もOKとなりますから、
ことしこそは馬上の女王さまを

風もさわやかになり、われら禪党にとって最高のシーズンとなりました。

小生、十六才以来かたときも禪をはなさず愛用している愛禪党です。もちろんゆる禪は大きい、日本男子の誇りを、文字どおりの緊禪一番に感じています。

「風奇」のファンのかたの中でこの「禪に生きる男」の友人となってくださるかたはないでしょうか。

小生の方の海岸の砂丘や松林は、プレーに絶好のところであります。禪一本の同好の人たちと、責め責められ、存分なプレイがしあえたらどんなに楽しいでしょう。

同志ほしさに思いきって次に住所氏名を明記しました。全国の禪ファンのみな様、ぜひご連絡ください。

なお、おたよりは封書でお願いします。

(藤沢市鶴沼七三九三 松村年久)

浣腸の相手役が欲しい

わたくしは女性との浣腸プレイを望んでいる者です。浣腸に

は自信があります。現在わたくしの持っている浣腸器具は二〇cc・三〇cc・五〇cc・一〇〇ccのガラス浣腸器と、エネマ・シリッジ、それから五〇〇cc・二〇〇ccのガラス、イルリガートルなどです。

わたくしは相手に浣腸するだけでなく、女のかたにもされてみたいと望んでいます。どうか女性の方で(東京在住)お互いに浣腸プレイを楽しみたいかたぜひおたよりください。決してご迷惑はかけません。

お互いに楽しむのですから、互いになんの要求もしないことを条件にプレイをしたいと思えます。

(台東区上野公園竹ノ台会館99号方 鈴木三郎)

千葉のM・Y君へ

千葉のM・Y君、きみの年齢は何歳かしりませんが、小生は戦地でサドになったものです。

現在美容院を経営していますがもし、君が僕の家へ奴隷として住みこむなら、飼育してもよいと思っています。

そのかわり、朝は早くからそうじや食事の用意をして、昼間

は技術を習い、夜は主人のマッサージなどをして、少しでも気に入らぬと、エビ責めや他の種の拷問を覚悟してもらいたい。体重二十貫ならりっぱなからだろうから、責めがいがあるだろう。

なお、M性の人お手紙ください。

わたくしの住所は読者サロン係に問いあわせてください。

(石川県 KK生)

感激の男性ヌード

「風奇」四月号よりの愛読者ですが、たちまち「風奇」の大ファンになってしまいました。

とくに、男性ヌード、禪姿は気に入って、感激しています。

しかし、男性ものは女性ものにくらべて、まだまだものたりません。

今後もっともっとと発展させてください。

また、読者のなかの、男性ヌードおよび禪マニアの皆さんとぜひ文通したいと思っています。

特に都市の方のおたよりをお待ちします。

(長崎県西彼杵郡大瀬戸町多次良松尾一老)

いさみ肌の魅力

いよいよ夏祭りの季節です。各地では相ついで祭風景がくりひろげられます。

カラクリモンモンの入れ墨に、白い禪をきりと締めこんだ「いさみ肌」のエロティシズムは楽しいものです。

あるいは学生相撲や、草相撲など、たくましい禪男をスナップする好機会です。そういう写真も、大いに掲載してください。

(北海道 村井生)

二人だけが楽しむ大人の絵本?

好き人の筐底に隠された夜の秘密!

秘められた名画と

禁じられた場面集

この場面をマネしないで下さい!

夜のムードにマッチした新形式の秘芸画入 千共 五〇〇円

▼カタログ切手30円封入申込の方に急送す

東京都世田谷局二十一号④ 福寿会



風俗奇譚

△在庫のお知らせ▽

既刊号のご注文は、現金書留、振替為替が確実で、ご便利でございます。

(カットは六月号表紙)

△36年度V六月号(一五〇円)

多色口絵II美しきいけにえ……
グラビアII妍を競う艶縛姿態集
しごきで縛られて・寝乱れ縛
姿・全裸に縄が・腰かけし
り・開脚の姿勢・障子の前で・
タイルは冷たい・縄の悶悦・
縛られたボリューム・男の縛
りプレイ・踏んづけ海老責め・
六尺と縄の魅惑……
特集II女装に陶醉する男たち
ああ女装の夜はふけて……
男性の心の底に眠る女装願望
女装する男たち……
女装のあたしを誘惑した男……
女装花ひらくとき……
限らない女装へのあこがれ……
私の女装のお師匠さん……
私はこんな人が欲しい……
女装愛好の部屋……
ある完全女装……
マゾヒストの手紙から⑪……
ふたりのマゾヒストの女……
サロンマゾキスチカ……

ホモの窓……
ホモ禁秘帳⑧……
フアンタジック・ショート

夜行動物……
女性の残酷なる責め場集……
怪奇人形館の秘密と恐怖……
浣腸のある風景……
豊満な白い尻の魅力……
女体に加えるウナギ責め……
小説・虐殺指令……
小説・炎帝廟②……
小説・悦虐の彷徨②背徳の夜……

五月号 (一五〇円)

多色口絵IIムチをふるう女……
グラビアIIふたり縛り・制服は
嘆く・狼籍の瞬間・荒縄が
肌を噛む・どうされるのかし
ら?・悦虐の時が来る・羞恥
のなかから・首輪につながら
て・稲藁のかげで・恥ずかし
くて・縛られた男・ムチ打つ
女……
特集II鞭に憑かれた男と女
鞭よ、愛しておくれ……

鞭打の魅惑……
鞭は生きている……
だれでも持っている鞭打への
関心……
鞭と女と男と……
ムチで鍛えられた女……
あたしの鞭打の獲物……
ムチと皮紐の一夜……
ふくよかな処女の尻に……
愛と復讐と鞭と……

6人の受難の女……
灼熱地獄・冷水地獄・生きて
いる的・ふたりさらし……
ほも禁秘帳⑦狂崇の対象……
同性マゾヒストとの会話……
ヌートリクス画廊……
乗馬マニア9人の女たち……
ヌートリクス・コーナー……
女騎手強制調教所……
サロン・マゾキスチカ……

ホモの窓……
女装愛好の部屋……
あたしは肉体まで女になった……
猫責め地獄……
小説・炎帝廟①白虎章……
小説・悦虐の彷徨①被虐の女……

四月号 (一四〇円)

多色口絵II赤い靴のドミナ……
グラビアII太鼓しぼり・木にく
くられて・荒小屋を背に・石
の階段は冷たい・古雅な中庭
で・緊縛悶姿・早く叩いて・
冷蔵庫の上に・シャツも破れ
て・ひじ曲げの拘束・棒背負

い・双丘の魅惑……
特集・東西古今刑罰残酷物語……
刑罰にひそむサディズム……
世界残酷刑罰の生態……
刑罰と拷問のいろいろ……
江戸封建社会の刑罰……
昔の刑罰は残酷だった……
花井お梅の獄中日記……
申城残酷記……
マダレナ殉教秘史……
尻打ちの世界・泰西名画集……
責められる女の姿態……
晴雨流女のしぼり方・伊藤晴雨
マゾヒストの手紙から⑩……
鼻の穴がピコピコうごく……
ほも禁秘帳⑥……
Hの中のSの形態……
サロン・マゾキスチカ……
ホモの窓・女装愛好の部屋……
私がマゾキスチカになったのは……
私のいけにえになった処女……
鞭打浣腸小説・鞭魔ロベール……

三月号 (一四〇円)

多色口絵・雪の露台・村上ユキ
グラビア・雪の女・雪にころが
されて・妖艶切腹の図・制服
椅子責め・裸身ながながと・
なまめかしい受縛・ころがさ
れた受縛・古風な雰囲気・
テールブルの上の裸女・乳房を
縛る・足を責める・呪縛の姿
勢・さかさ女……
モデル・村上ユキ・西牧えり子
風早由美子・さつきみち……

特集・マゾヒストの世界……

マゾ小説・でんすけ地獄……

赤禪斬り込み隊……

戦争残虐4つの物語……

絵物語・毛皮を着たヴィナス……

K氏自虐帳(告白小説)……

黄金色のご馳走……

サロン・マソキスチカ……

マゾヒストの手紙から⑨……

妖異の世界……

乳房・尻・頭髮フェチシズム……

サディストの使用したムチ……

職業サディストの女……

長靴を捧げて礼拝する女たち……

交わり種二輪の名花……

あたしの「女形」……

女体責め絵集……

グラインダー地獄・また裂き……

変型責め・車責め・納屋の首……

吊り・あやつり責め……

江馬美久・田上恵子の傑作画集……

ほも禁秘帳⑤妖美なる野郎たち……

私の女装告白体験記……

女装愛好の部屋(富貴クラブ)……

私の女装半生記……

コルセット・フェチシズム8景……

白亜楼血の紅白試合……ほか

二月号 (一四〇円)

多色口絵・縛愁・囚花・制服は……

悲しからずや・乳房をかむ縄……

ハリツケ縛り・緊縛・拘束の……

写真と責め絵特集……

妖美なる女体責め絵集……

マゾヒストの手紙⑧……

三人のソドミア……

あたしの女装生活ありのまま……

妻をいじめる私の方法……

鞭打悦虐小説傑作特選集……

一月号 (一四〇円)

多色口絵・血を好む大公妃……

責め絵集・空中緊縛ほか……

色刷写真・ふたりプレイ・オン……

パレード・レザー・フェチシ……

ズムほか……

グラビア・妖美吊り艶姿・ころ……

がし責め・ハリツケとさか立……

ち・閨怨のポーズほか……

特集・ソドミアとレスボス……

ビューティ・ビューティ……

ウィルニングについて……

男色殺人事件を推理する……

その愛術のすべて……ほか

ハ35年度V十二月号(一四〇円)

特集・伊藤晴雨責写真自選集……

多色口絵・野ざらし……

責め絵スケッチ集……

晴雨女体緊縛写真集……

伊藤晴雨さんのプロフィール……

晴雨さんの雪責め……

グラビア・石段の緊縛裸女・め……

しい鳥・石垣の前で・長じゅ……

ばんも乱れて・棒しばり・浴……

室の悶姿・廃墟のとらわれび……

と……ほか

十一月号 (一四〇円)

多色口絵・水地獄……土井啓子……

女体責め絵・丸太小屋の惨・岩……

場ハリツケ・竹しばり責め……

射撃のマト・ほか……

グラビア・艶麗無残・はなやか……

な足吊り・犬の首輪のブラジ……

ヤー・吊るし責め他……

特集・戦争残虐の記録……

拷問倉庫(従軍看護婦の悲劇)……

憲兵狩り(終戦残虐秘話)……

十月号 (一四〇円)

多色口絵・女体知恵の輪……

色刷写真・美しき囚虜・あかり……

も淡くほか……

グラビア・白衣の佳人・長椅子……

と女・白衣も乱れて・ローソ……

クが肌を焼く・ほか……

特集・サディストの群れ……ほか

九月号 (一四〇円)

多色口絵・空中鞭打……

原色写真・厳頭の裸女・つるさ……

れた白魚……

グラビア・落花の景・裸女無残……

二人しばり・静かなる地獄……

投げ出された女ほか……

特集・女装する男たち……ほか

八月号 (一四〇円)

多色口絵・受縛二重奏……

口絵・荒れ小屋の残虐……

グラビア・スタンドの美女……

特集・レスビアンとの生感……ほか

七月号 (一四〇円)

多色口絵・落花図絵……

グラビア・恋慕受縛・姐上の白……

魚・肌もあらわに・ベツトは……

知っている・鏡の中の縛女……

体・灯籠しばり・ほか……

特集・食人症……ほか

六月号 (一三〇円)

多色口絵・痛ましき祭壇……

グラビア・樹間のニフ・密室……

の呪縛・足づり裸女・庭園の……

囚魚・憂愁の美女・障子の前……

の残虐・狂熱の閨・読者緊縛……

写真……

特集・フェチシズム(淫物症)……

夏の臨時増刊号(一八〇円)

法悦特集五月号(一四〇円)

悦虐特集四月号(売り切れ)

春の臨時増刊号(二〇〇円)

艶妖特集二月号(一四〇円)

創刊臨時特集号(売り切れ)

(左は五月臨時増刊号表紙)

風俗奇譚 (B5版)

5月臨時増刊号

定価 二八〇円

大判の魅力をフルに生かし、
マゾヒストの天国、同性愛の
法悦境を特集した超豪華本!





画報風俗奇譚

〈在庫のお知らせ〉

各号とも在庫が少なくなつてまいりました。お申し込みは、お早めに、現金書留か振替が確実です。

△36年分▽

画報風俗奇譚・第13集

六月号(一八〇円)

表紙Ⅱ快樂の果てに……
色彩写真Ⅱ首を責める……ハモ
デルⅤ高月まゆみ・児玉幹也
色刷口絵Ⅱ乳房突き・ハシゴ責
めハ田上恵子・えⅤ
グラビヤⅡ木馬責めの少女・入
り組んだポーズ・おびえてい
る・艶美なる切腹・細い紐の
模様・受縛の置き物・つい立
て責め・ハシゴしぼり・長々
と縛られて・艶縛のひと・恥
ずかしい姿態・緊縛の背面・
緊縛の正面・木馬に乗る女①
木馬に乗る女②・ころがされ
て・半裸のゴム紐縛り・白い
縛魚・青い愁いびと・縛悦の
時間・縄が呼ぶ陶醉・次は水

画報風俗奇譚

4月臨時増刊号

伊藤晴雨追悼特集号として放つ
迫真の緊縛フォト一五〇ポーズ
と東西古今秘面の豪華集大成

定価 二八〇円

責め……
ルイ・アピラシリーズⅡ鞭をも
つ女・縛られた女3態……
男性緊縛悦虐のポーズ集ハグラ
ビヤⅤⅡのしかかる・あたし
の犬・縄と足の加虐・二つの
性向・我はマゾヒスト・男の
魅力・縛られ男・足引きの責
め……
凄艶責め絵4人集Ⅱクサリをま
とってハ田上恵子Ⅴ・谷川づ
け・カマ抱きハ古正英生Ⅴ・美
しき人間椅子・人魚責めハ江

馬美久Ⅴ・背中を焼くローソ
クハ小田利美Ⅴ……
妖美な展覧会Ⅱ便器のそばの少
女・うがいする男・女の夢・
映画批評家の夢・乗馬クラブ
にて・女騎手・家庭での懲戒・
ドレスラー・ゴダルほか……
楽しきかな足の魅力……
読者の広場……
悪魔作家の仕事部屋……
サド女性に縛られた女装男……
諸国責めばなし③……
復讐される女たち……
お仕置きされる美少女……
処女タナの五日間の成人式……

画報風俗奇譚・第12集

五月号(一八〇円)

表紙Ⅱパイロス秘画……
色彩写真Ⅱ自己陶醉・ふたり愉
悦・ひとり燃えてハモデルⅤ
真咲みどり・なぎさ純子……
グラビヤⅡ緊縛二重奏・セーラ
ー服乱れて・制服落花・長火
鉢の側で・草はらで・スタン
ドの上に・魅縛の白魚・碁盤
いじめ・マキの山を背に・裸
の羞恥・ゴム紐は肌に・杭が
背中に痛い・廊下の手すりで・
床の間の点景・陶醉の寝姿・

手を組んで縛る……
妖美の花園に咲く姿態Ⅱ縄の妖
美・柱しぼり2態・柵に置か
れて・靴のまま・あたしを愛
す・ふたりしびれ・変形エビ
責め・そり責め……
白い肌無残絵Ⅱさかさ縛り・拷
問機械・歯車責め・受難の座・
縛悦悶姿3態・油地獄……
ハ古正英生・江馬美久・田上
恵子画Ⅴ
女装紳士録②……
ヌートリクス画廊……
特選絵物語Ⅱ驕れる美少女ド
ラ・黒眼鏡の野獣……
ゲンドリリンの降服と冒険……
若武者裸の出陣……
諸国責めばなし②……
パラダイス・イン・スパンキング
責めの医学的研究……
風変わりな展覧会Ⅱ秘密の申し
込み・レスボスの花園・奴隷
市場・ムチを持つ女・男たち
を支配する女・サディストの
夢・淫楽殺人ハアルベール・
モロオ・藤田嗣治・ルネ・サン
メルシ・ジョン・ウイリー・
F・セケス・K・ヴァンゲン・
デックマンⅤ……ほか

画報風俗奇譚・第11集

四月号(一八〇円)

表紙Ⅱバイロス秘画………
 色彩写真Ⅱ林の中で・祠の前で・
 崖の上で・稲叢の前で・モデ
 ルV島崎ユカ・村上ユキ・牧
 アンナ………
 口絵Ⅱ無残!責められる女8態
 ムチ責め・くすぐり責め・火
 責め・水責め・おもひ責めほか
 グラビアⅡ石どうろう縛り・静
 かなる受縛・縛られた寝姿・
 格子に縛られて・エビまがい・
 機械の側ではか………
 ストリクス画廊………
 アゾンの会の男性征服……谷貫太
 女性同性愛クラブ………
 諸国責めばなし………芦立鋭吉
 もう一つの世界………
 女サディストシユトラビツ
 候爵夫人・女装コンテスト・
 女のレスリング………ほか

画報風俗奇譚・第10集

三月号(一八〇円)

表紙Ⅱハレムのサルタン………
 色彩写真Ⅱ艶縛クワルテット………
 グラビアⅡコタツに乗せる・雪
 中縛女・戸外は雪と氷………ほか
 哀艶無残責められる女7景………



徒を破った女・蒸気責め・毛
 虫責め・マキの山ではか………
 不思議な世界Ⅱソドム・勝利の
 女神・新しきディオギネス・
 乙女の尻を守る甲冑………
 尻打ち天国・男の尻打ちに興ず
 る女・ボクサーと女トレーナ
 ー・スパンキング………ほか

画報風俗奇譚・第9集

二月号(一八〇円)

表紙Ⅱボタン止めの長靴の女………
 色彩口絵Ⅱ肌もあらわにほか………
 グラビアⅡなまめかしき縛女・
 全裸のいけにえ………ほか
 女性刑罰史絵巻・海老責め無残
 かきなわとりしめ・四寸なわ
 れんじやく縄………
 女体責め悦虐画集………
 ガラスの幻想………田上恵子
 水責め苦悶図………江馬美久

湯気赤熱責め………小田利美
 アブチックな世界への招待………
 異常な性風俗展覧会………ほか

画報風俗奇譚・第8集

一月号(一八〇円)

表紙Ⅱモルヒネ………ステファン
 色彩写真Ⅱ女体羞姿・ほか………
 女体責め絵集Ⅱクサリ吊りほか
 グラビアⅡ盛装無残・妖美のベ
 ッド・古風な花・腹切り悶悦

△35年分▽

画報風俗奇譚・第7集

十二月号(売り切れ)

表紙Ⅱステンドグラス………

画報風俗奇譚・第6集

十一月号(一八〇円)

多色口絵Ⅱ石橋の上にほか………
 第1グラビアⅡ壁上の呪縛ほか
 第2グラビアⅡはなやかな縛虐

画報風俗奇譚

1月臨時増刊号

アブチック名画を特集とし、ほ
 か読者垂涎の女性緊縛写真多数
 をグラビヤに収載する迫力版ノ

定価 二八〇円



第3グラビアⅡ華麗なりハリッ
 ケ・受縛の表裏ほか………
 責め絵集Ⅱ吊ってくすぐる・ア
 リ責め・丸太流し………ほか

画報風俗奇譚・第5集

十月号(一八〇円)

多色写真とグラビアフォト多数
 奇妙な絵画展覧会………ほか

画報風俗奇譚・第4集

九月号(売り切れ)

画報風俗奇譚・秘蔵版

(二〇〇円)

多色刷り写真と多色刷り口絵………
 責め絵画集と緊縛写真集………ほか

画報風俗奇譚・第2集

(一八〇円)

多色口絵写真と口絵写真集………
 グラビア鮮烈緊縛写真集………ほか

代理部の案内

コレクション用の格調ある緊縛フォトを分譲しております
新発表もございますから、どしどしお申し込みください。

ご注文は現金書留か振替が便利です、確実にお願いします。
東京都千代田区神保町一ノ三五
文献資料刊行会代理部あて ご注文ください。

好評モデルの 緊縛・アラカルト



村上千穂特選フォト

非情な責め苦と哀艶の抒情譜

☆全裸うしろ手縛り(略M1) 三枚一組 三〇〇円

☆お灸灼熱地獄(略M2) 三枚一組 三〇〇円

☆本格縛り責め三態(略M3) 三枚一組 三〇〇円

☆豊麗切腹(略M5) 三枚一組 三〇〇円

☆閨房股間縛り(略M6) 三枚一組 三〇〇円

☆凄絶雪責め(略M7) 三枚一組 三〇〇円

☆女囚緊縛ポーズ(略A6) 三枚一組 三〇〇円

江戸時代の刑罰資料をもとに
女囚縛りを再現した哀艶の譜

☆野外縛り(略A7)

三枚一組 三〇〇円

西牧えり子悦虐縛り

全裸にむかれた可憐な乙女!

☆中国服悦虐フォト(略N1) 三枚一組 三〇〇円

☆いたぶられる姑娘(略N2) 三枚一組 三〇〇円

☆乙女の祈り(略N3) 三枚一組 三〇〇円

☆全裸いたぶり(略N5) 三枚一組 三〇〇円

☆鼻責め嗜虐(略N6) 三枚一組 三〇〇円

☆哀花受難(略N7) 三枚一組 三〇〇円

西条さくら豊艶緊縛

はちきれんばかりの狂宴地獄

☆乳房地獄責め(略S1) 三枚一組 三〇〇円

☆腹部への嗜虐(略S2) 三枚一組 三〇〇円

☆悶姿の祭壇(略S3) 三枚一組 三〇〇円

☆た女の魅惑、眼帯のもつ妖美
さるぐつわ艶姿(略C9) 三枚一組 三〇〇円

無残にも呼吸をせきとめられ
た責め苦の中の妖艶の美女!

風早由美子妖美緊縛

大型グラマの本格責め苦!

☆樹間のニンプ(略H1) 三枚一組 三〇〇円

☆嘆きのセーラー服(略H2) 三枚一組 三〇〇円

☆死のベルトの誘い(略H3) 三枚一組 三〇〇円

舟木喜代子B.G.緊縛

可憐なB.G.スタイルのプレイ

☆大の字縛り(略F5) 三枚一組 三〇〇円

☆ハダカ男馬のり(略F6) 三枚一組 三〇〇円

高月まゆみ野外緊縛

荒涼たる砂浜に転がる姿態!

☆砂浜荒縄しぼり(略T5) 三枚一組 三〇〇円

魔家(あばらや)の恋縄

☆妍を競う三人艶縛集(略T6) 三枚一組 三〇〇円

☆肌くらべ全裸縛りの姿態! 三枚一組 三〇〇円

花ひらく受縛天国

三枚一組 三〇〇円

られ投げ出された陶酔の極致

☆流腸悦虐フォト(略D10) 三枚一組 三〇〇円

もだえにもたえる流腸の嗜虐
は流腸マニア待望の決定版!

本誌独占!
男性緊縛の魅惑!



☆禪姿二人プレイ(略B18) 三枚一組 三〇〇円

サド・マゾ二人のコンビが
禪しめて演ずる逞しき嗜虐

☆禪男一人プレイ(略B19) 三枚一組 三〇〇円

白い禪の目にもあざやかな
その男性美をいさよる自虐

☆裸姿ふたりプレイ(略B20) 三枚一組 三〇〇円

大名屋敷のけんらん豪華な
居間にくりひろげる恍惚境

☆全裸男性美決定版(略B21) 三枚一組 三〇〇円

筋骨たくましきモデル別府
昭彦の逞しき全裸の躍動美

☆禪姿一人緊縛(略B22) 三枚一組 三〇〇円

江戸っ子の気風そのまに
キリリとした六尺禪美!

☆青竹十文字背負い(略B23) 三枚一組 三〇〇円

三枚一組 三〇〇円

森閑とした雑木林の中にくり
ひろげられた羞恥の緊縛女性
☆凄絶切腹六態(略A8)六枚一組 八〇〇円
豊満な腹部への嗜虐、噴出す
る鮮血、女体悶絶の凄惨集！
☆全裸緊縛ポーズ(略A9)三枚一組 三〇〇円
はじめて公開した全裸凄絶の
女の妖しき悦虐姿態の決定版
☆臀部責め(略A10)三枚一組 三〇〇円
豊満な臀部への加虐のムチが
とび悶える肉を針が突き刺す
☆水責め・湯責め(略A11)三枚一組 三〇〇円
全裸女性をあくことなくバス
ルームに、古池に漬け責める
☆本格鞭打プレイ(略A12)三枚一組 三〇〇円
人間本能の嗜虐の極致！本誌
のみがなし得た恐怖の迫真感
☆豊満なる緊縛女体(略C6)三枚一組 三〇〇円
超グラママーのはちきれんばか
りの肉体に食い込む縄の陶醉
☆海老責め地獄(略C7)三枚一組 三〇〇円
死一步寸前のエビ責めに絶叫
する決定的瞬間の緊縛ポーズ
☆眼帯の女(略C8)三枚一組 三〇〇円
不完全の美、片目をふさがれ

三枚一組 三〇〇円

☆制服の乙女縛り(略C10)
むしりとられたセーラー服の
乙女が悶える緊縛の青春譜！
☆裸女棒しばり(略C11)三枚一組 三〇〇円
荒れけずりの棒が縄の痛さを
増し、白肌に鮮血がにじむ！
☆密室の呪縛(略D6)三枚一組 三〇〇円
呪われた女の宿命、のたうつ
裸女にせまる悪魔の鋭い牙！
☆全裸変形地獄図(略D7)三枚一組 三〇〇円
うごめく女体を密室で責め抜
くサド・マニアの無残絵巻！
☆無残二人しばり(略D8)三枚一組 三〇〇円
背中合わせの美女ふたり、縛

特写フォト

お待ちかね新発表！

▽……モデル……舟木喜代子
☆豊艶乳房しばり(略F7)▽……モデル……島崎 ユカ
三枚一組 三〇〇円

五枚一組 五〇〇円

☆血みどりのリンチ(略X8)
縛られ、吊り下げられ、あげ
くの果てに鋭利な白刃の餌食
☆悦虐の表情(略X9)三枚一組 三〇〇円
悦虐の極致をそのまま表情に
とらえた無上の陶醉の美しさ
☆本格吊るし責め(略X10)三枚一組 三〇〇円
妖美艶麗、まさに晴雨翁えが
く本格的吊り責め絵をしのぐ
☆女王さまとしもべ(略W1)三枚一組 三〇〇円
女王さまのお気持ちのままに
奉仕するのが、下僕の役目！
☆ドミナのムチ(略W2)三枚一組 三〇〇円
ピシリッ ドミナのムチが男
に容赦なく打ち下ろされる！

☆力つきた処女(略P1)

三枚一組 三〇〇円

▽……モデル……比良 道子
☆蛇が白肌を(略P2)三枚一組 三〇〇円
▽……モデル……井神せい子
☆迫るローソクの炎(略P3)三枚一組 三〇〇円
☆全裸責めの魅惑(略P4)三枚一組 三〇〇円
▽……モデル……さつきみち
☆晴れ着もあらわに(略P5)三枚一組 三〇〇円
▽……特別組みフォト
☆股裂き三人選(略P6)

三枚一組 三〇〇円

☆禪股間ポーズ3態(略B24)
呪われた宿命の掟に背負っ
た青竹十文字の奇怪な緊縛
股間のもつ男性の曲線！逞
しくおらかな嗜虐の極致三枚一組 三〇〇円
☆変形縛り責め(略B25)
絶息寸前までに責め抜く変
形縛り、号泣する男の悲哀三枚一組 三〇〇円
☆純白の禪姿(略B26)
浅黒い肌に映えて、六尺姿
の魅力いっぱい男性美！三枚一組 三〇〇円
☆しいたげられる禪男(略B27)
禪一本の姿でしいたげられ
て咲いた強烈な嗜虐の花！

三枚一組 三〇〇円

▽……モデル……西牧えり子
☆虐められる制服の少女
(略N8)三枚一組 三〇〇円三枚一組 三〇〇円
☆悦虐の園の女(略N9)三枚一組 三〇〇円
▽……モデル……高月まゆみ
☆碁盤責め三態(略T7)三枚一組 三〇〇円
☆野外十字架縛り(略T8)三枚一組 三〇〇円
☆犬になった女(略T9)三枚一組 三〇〇円
☆車中の拘束(略T10)

＜男性責め写真・新作発売＞

☆：好評の男性責め写真に、こんど左のとおり新作を作りました。お申し込みください。

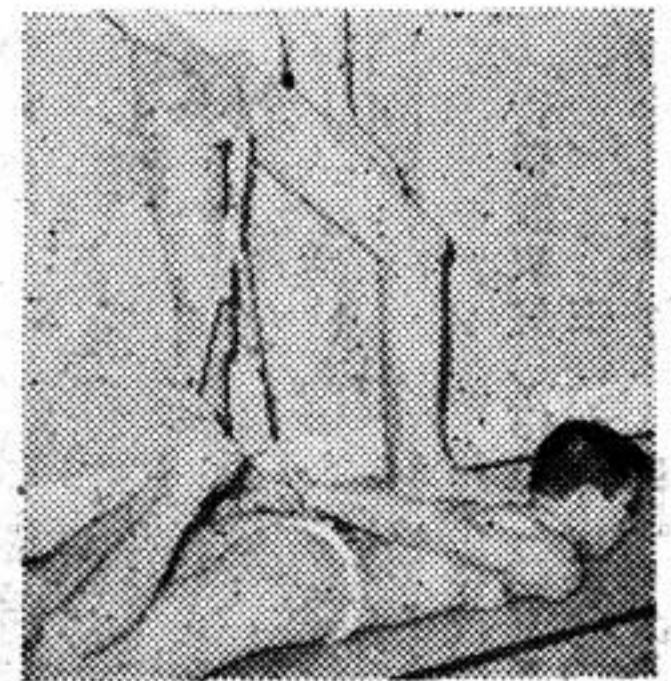
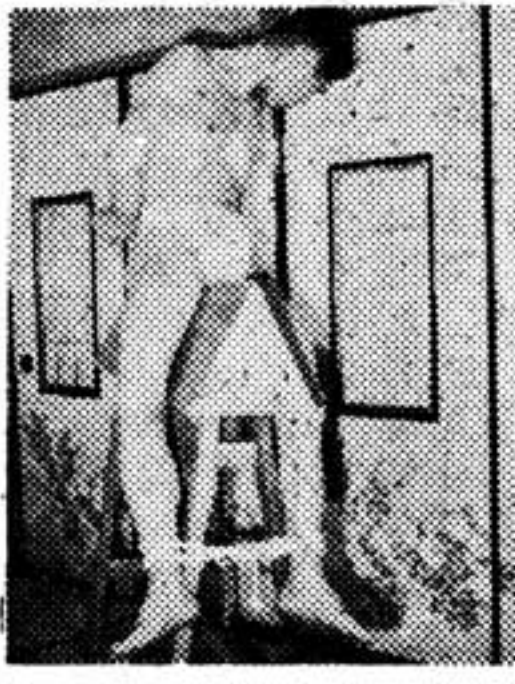
▼三角木馬責め 八略B 28V
股間を責める三角木馬の鋭角ノハモデル・児玉幹也
(三枚一組) 三〇〇円

▼竹を背負って 八略B 29V
背中を負わされた竹が責めるノハモデル・児玉幹也
(三枚一組) 三〇〇円

▼禪姿開脚の図 八略B 30V
胸を張り脚を開いた逞しい姿勢ハモデル・児玉幹也
(三枚一組) 三〇〇円

▼全裸の男 八略B 31V
一糸まとわぬ肢体の魅力溢れてハモデル・霧島茂樹
(三枚一組) 三〇〇円

▼変わり海老責め 八略B 32V
無上の苦痛から生まれる緊縛美ハモデル・大和健一
(三枚一組) 三〇〇円



▼緊縛の悦虐境 八略B 33V
さまざまな責められる男の姿態ハモデル・大和健一
(三枚一組) 三〇〇円

▼踏んづけられて 八略B 34V
縛られた姿勢で踏まれる苦しきハモデル・大和健一
(三枚一組) 三〇〇円

▼男を責める男 八略B 35V
男ふたりのかす妖美の世界ハモデル・御堂市川
(三枚一組) 三〇〇円

▼おれのエモノ 八略B 36V
縛られた男を責めさいなむ男ハモデル・御堂市川
(三枚一組) 三〇〇円

右のうち、霧島茂樹は新人のモデルで、まだ本誌にも登場していません。なお、来月は女性責め写真の新作を発表する予定です。

■編集室より

早いもので、ついこのあいだ正月を送ったと思っっているうちに、もう温度は、一日ごとに高くなっている。本誌も七月号となつて、号数のうえでは、いよいよ今年の後半にはいるわけである。読者諸氏のご支援ご鞭撻を願うとともに、よりいっそうの努力を誓う次第である。

さて、このところ海外からの新着ものをだいたい掲載してきたが、こんどは、イギリスものの組み写真を二組入手した。紳士の国・礼儀の国といわれるイギリスで、なおかつ、こういう写真が製作されるということは、いかに、この種の性向が全世界に根をひろげているかが、うかがえよう。

こういう種類のものは、ぜったい他誌の及びもつかないところと自負しているが、今後、よりよいものの入手に努力したい。

それともう一つ、男性責めの写真や記事も、本誌の特色としていきたい。さいわい、筆者やモデルで協力を申し出てくださる人が多いので、この面でも新生面を開きたい。

■月ぎめご購読の方法

風俗奇譚 (各送料とも)

一カ月 (一冊) 一五〇円
三カ月 (三冊) 四五〇円
六カ月 (六冊) 九〇〇円
一カ年 (十二冊) 一八〇〇円

画報・風俗奇譚 (各送料とも)

一カ月 (一冊) 一八〇円
三カ月 (三冊) 五四〇円
六カ月 (六冊) 一〇八〇円
一カ年 (十二冊) 二一六〇円

★本社に直接ご注文の場合は、現金書留か振替が確実で、ご便利です。ただし、振替は日時がかりますゆえ、あらかじめご了承ください。

風俗奇譚 六月号

定価一五〇円

昭和三十六年六月二十日印刷
昭和三十六年七月一日発行

編集人 高倉 一
印刷所 刊行会印刷部

東京都千代田区神田神保町一ノ三五
発行所 文献資料刊行会

振替東京 四二四九四番
電話東京(291)二四三〇番